



第 25 回

地球環境問題と人類の存続に関するアンケート

調査報告書（自由記述）

2016 年 9 月

公益財団法人 旭硝子財団

問 2 地球環境問題に関するご意見

<国内>

問 2 地球環境問題に関するご意見 - 自由記述

地球環境問題についてのご意見を自由にお書き下さい。下記の“地球環境の変化を示す項目”の中にご意見と関連する項目がある場合は、欄にチェックを入れてください。(複数可)「12. その他」の場合には、内容をご記入下さい。

地球環境の変化を示す項目

| | | | |
|----------|---------|------------|-----------|
| 1. 気候変動 | 4. 環境汚染 | 7. 食糧 | 10. 環境と経済 |
| 2. 生物多様性 | 5. 水資源 | 8. ライフスタイル | 11. 環境と社会 |
| 3. 土地利用 | 6. 人口 | 9. 温暖化対策 | 12. その他 |

「12. その他」の内容：

注) 以下に掲載の記述回答文の内容は、回答者個人のご意見で有り、財団の見解を代表するものではありません。
また回答には氏名(敬称略)、国名、事務局番号を明記して、匿名希望者は匿名として標記しております。

持続可能な経済発展について各国、企業ともに尽力しているが移民問題等環境以外の要素による混乱、ヨーロッパの権威失墜等、努力が無駄になっているのが現状。

【10. 環境と経済】

(匿名) W002

これからは途上国の開発に先進国が大きく経済的にも技術的にも関与していかなければ、なかなか人類の危機を乗り越えることはできないのではないかと。

【1. 気候変動, 2. 生物多様性, 4. 環境汚染, 5. 水資源, 7. 食糧, 8. ライフスタイル, 9. 温暖化対策, 10. 環境と経済, 11. 環境と社会】

(匿名) W003

それにしても人口が、持続可能な資源と比べて多すぎると言うことか

【12. その他(資源)】

(匿名) W004

世界人口の増加とエネルギー問題の深刻化により環境問題はますます重要化している。地球温暖化については不確実で政治的な要因によって正確な情報が提供されていないが、環境負荷は大変危険であることは論を待たない。

【6. 人口, 8. ライフスタイル】

(匿名) W005

人口増加とライフスタイルの変化から急速に資源利用が進み、その反動で環境汚染が進んでいる。その筆頭は気候変動で有りその防止のためには温暖化対策が必至であろう。温暖化が起こっているか、またその原因が二酸化炭素であるかどうかには異論もあるところだが、二酸化炭素の排出量を削減することは資源消費の減速、食料の公平な分配にもつながると考えられることから、その対策は急務であると考えている。

【1. 気候変動, 6. 人口, 7. 食糧, 9. 温暖化対策】

(匿名) W006

現状の地球環境問題の多くは結局、地球の資源が有限であり、許容限度があるにもかかわらず人口は増加を続けていることにあると思う。先進諸国でライフスタイルの変化などにより、一人一人のエネルギー消費等が減ったとしても、それを上回る勢いで発展途上国の人口増加および生活状況の改善のためのエネルギー消費等が増える現状にある。ローマクラブの予測ではそろそろ人口はピークを迎えるはずであったが、それがどうなるかは注意深く見守るべき事象であると思う。

【1. 気候変動, 6. 人口, 7. 食糧, 8. ライフスタイル】

(匿名) W008

気候変動と温暖化対策は同じ土俵で論じる必要があると考える。特に今日においては、パリ協定後の国際社会の行動がどのように進んでいくかについてとりわけ注意深く見ていく必要がある。さらに、パリ協定に基づき策定されるであろう政府の行動計画に、民生部門や市民がどれだけ協力できるかも、今後温暖化対策や気候変動問題への解決に向けたひとつのカギとなろう。そういった意味では、今日でもなお環境教育の役割は衰えていないと考える。

【1. 気候変動, 9. 温暖化対策】

高橋 正弘 W009

経済発展を不可避のものとし GDP で量的に評価する限り、地球環境に好ましくない事象が生じることがあります。このような好ましくない事象の生起を回避できる指標を利用しない限り、地球環境問題や生物保全の問題は、緩和の方向に向かわないと思います。

【1. 気候変動, 6. 人口, 10. 環境と経済】

楠田 哲也 W011

[気候変動]と「温暖化対策」の関係がよく分からないため、両者について時刻を回答することは差し控えた。前者は既に顕在化した気象システムの変化とその深刻さに関するもの、後者は、対策が必要なレベルに対して不足している程度に関する指数をさしているものとする。対策を、緩和策(mitigation)と適応に大別するとすれば、後者は、これまでのところ、事後対応となる面が強く、前者については、(パリ協定を含めても)必要なレベルに関する国際的な法的合意がないという状況である。以上により、時計の時刻を提示することは困難であった。

【9. 温暖化対策】

平石 尹彦 W013

資源(生物資源を含む)、廃棄物、土地利用....その他幅広い領域において、技術の進歩と経済のグローバル化の悪影響が抑制できないレベルに達している。

「進歩」「発展」が人類を人類としている本質であり、「進歩」「発展」を抑制したら人類はその本質を失うという議論をする人がいる。「自然をコントロールすることでヒトが人類」へと変化を遂げた。その流れを止めることはできないのであるならば、人類は「最後の1本の木が切り倒されるまで森林資源の収奪を続ける」ことだろう。

外部経済を内部化すれば良い、との議論があるが、国家が闇の経済をコントロールできないだろう。また、あまりにも巨大化したグローバル企業の命脈を絶つような政策も取り得ない。環境危機時計を後退させる、あるいは進みを遅らせる動きが見えない。

【2. 生物多様性, 8. ライフスタイル, 10. 環境と経済】

(匿名) W014

数年前、2050年に95億人に達してその後減少に転ずると言われていた世界人口はその予測を超えて100億人を突破すると最近訂正された。人類がその経済成長のためにかけてきた地球への環境負荷は、地球が本来持つ収容力を大きく超えて将来の環境資産を食い潰している状況である。

人口抑制を世界的な課題として公に議論することが憚れる中、このままでは人類唯一の住環境である地球の収容力に収まらない数の住人が溢れることになる。

現在の繁栄や経済成長は、150年前に開発され利用が始まった化石燃料の利用によるものが多く、産業革命以降の技術開発は飛躍的に化石燃料の消費を拡大し、その影響は温室効果ガスの濃度につれて気候変動・地球の温暖化という減少となって世界の生態系に影響を与え、僅か百年で脊椎生物の数は40%以上も減少した。トラを例にとれば10万頭いた野生のトラはその生息地13か国の近年の調査で3200頭まで激減した。97%もの減少は人為的な乱獲・密猟・森林の減少などすべて人類を起因とする理由で発生しており、生態系の頂点に立つこれら捕食動物の激減は大きな異変を自然界に及ぼすと危惧される。

人類は今こそ英知を結集し、自然資本の収容力の中で循環型の生産・消費を念頭にライフスタイルを変革しないと新たな奪い合いと殺戮の歴史を繰り返す危惧がある。人権問題や社会問題が環境問題と切っても切り離せない理由はそこにある。人類は勇気を持って国境を超越した地球益のために団結する最初で最後のチャンスを与えられている。環境問題の世界規模での解決は時代に要請された我々の世代のもっとも価値のある挑戦である。

【1. 気候変動, 2. 生物多様性, 6. 人口】

筒井 隆司 W015

気候変動は、その影響が大きく甚大な被害に繋がり、また、影響が及ぶ範囲が地球規模であり、対策がまったなしである。幸い、COP21では、世界のほとんどの国の地球温暖化対策推進の合意が得られた。

今後、対策の推進が停滞したり、国によっては後退したりすることがないように、気候変動対策の側面では、世界が一つになって前進するよう、相互に励ましあう必要がある。

一企業の一担当として、出来ることに尽力したい。

【1. 気候変動】

気候変動問題の原因の根幹が人類のこれまで歩んできた中での勝手さや国際的協調性の喪失などによるところを見ると、改善への見通しはほぼ絶望的といっているのではないかと。今後先進国というか大国自身がよほど壊滅的な気候変動のしっぺ返しをうけなければ根本的な解決策に取り組むことにはならないのではないかと。それでも私たちは今の気候変動の原因は「地球には寒冷期や温暖期があるのであって、今の人類にはどうすることも出来ない」とする一部の学者に反論し、国際社会全体での取り組みをあきらめてはいけないのではないかと、かすかな望みを捨てずに意見を発信し続けましょう。

【1. 気候変動, 4. 環境汚染, 10. 環境と経済, 11. 環境と社会】

山田 英徳 W019

飲用に適した水資源が豊富な日本。その水資源は今世紀の世界において益々価値ある希少資源となっている。その希少資源を減少（枯渇）させないためには、森林や河川、農地等の地域資源を適切に管理することが大切で、そのためには地域の農林水産業を継続（持続）していくことがもっともコストパフォーマンスはよい。そして、そういうことを当たり前と認識する社会が必要であり、そのためにはすべての国民が自らのライフスタイルを顧みる必要がある。

【5. 水資源, 8. ライフスタイル】

伊藤 房雄 W020

適正な人口を超えると、資源の開発が過剰となるので、それに伴う環境汚染は避けられない。環境へのインパクトを最小限となるような人口の管理は必要と思う。

【6. 人口】

(匿名) W021

IPCC の報告で、温室効果ガス排出をゼロにするしか気候変動を止めることはできないとされたことをもっと真摯に受けとめて、各人が排出削減行動を進めてほしい。この低炭素化の方向は自然のことわりなのから、政府は迷うことなく再生可能エネルギーや節エネルギーに向かって強力な政策を打ってほしい。

【1. 気候変動】

西岡 秀三 W024

COP21 でパリ協定が採択された。2020 年以降の温室効果ガス排出削減のための新たな国際枠組みが決められて、初めてすべての国が参加する公平な合意となった。

しかし、各国の削減に関する約束草案を、その通り実現するには相当な覚悟が必要になる。2050 年に、世界規模で 40 - 70 % の削減を目標としているので、それを実現しようとする、化石燃料は、半分ほどを地下資源として残したまま、別のエネルギーへ移らなければならないということらしい。化石燃料に関する産業界、あるいは中東の国家の強い抵抗も予想され、まさにこれからが本番になる。どのようにエネルギーミックスを世界規模で実現するのか、大いにメディアは PR する義務を負う。日本のメディアは、産業界や政府の顔色を伺って、正論を国民へ向かって PR がしにくい情けない姿を示しているように感じられる。

今後、国家がエゴをむき出しにしないで、地球規模で成果が上がるように取り組んでいけるかが問われることになる。人類の叡智に期待したいところである。

【1. 気候変動, 6. 人口, 10. 環境と経済】

(匿名) W026

気候変動については、パリの COP21 は、現実的な対応としては、前進である。しかし、温室効果ガスの濃度上昇は、不可避と言わざるを得ず、適応策を真剣に検討すべきである。また、環境問題への取組には、結局、民主主義の徹底と教育・啓蒙の向上により何をなすべきかについての広範な合意の形成が基本であり、このような地道な努力を支援する仕組みを考えるべきではないかと思う。単純な先進国・途上国の二分論では、結局不毛の議論に終わってしまうと考える。

【1. 気候変動, 4. 環境汚染, 9. 温暖化対策, 11. 環境と社会】

横堀 恵一 W027

気候変動をはじめとして人類、ひいては地球にとって厳しい課題がいくつもあるが、その原因を作っているのは人間である。人口は日本では減少するとしても、世界ではまだまだ増加していく。そのうえ、特に発展途上の場合、過去に日本がそうであったように、人々はより多くの資源、エネルギーを消費するライフスタイルを求めていく。人口増加が不可避であれば、ライフスタイルの転換こそが求められることであり、理屈のうえでは人間がその生活形態を改めれば実現できるはずであるが、それができないのは既に先進的な生活を享受している日本人の暮らしぶりをみればわかる。日本人を含め、世界の人々が、より資源、エネルギーを消費しないライフスタイルへの転換に成功するかどうか、地球の運命を握っている。しかし、国ごとに条件、実現可能性は異なるので、それぞれの国に応じた対策を取ることに国際的に協力していくことが今後ますます必要となっていく。

若者の環境意識が低いと感じています。(もしくは高い人と無い人の差が激しいです)
 近い未来を担う若者の心を動かすために、企業や省庁のイメージモデルなどには知名度の高いタレントを起用するのではなく、環境意識の高いタレントやモデルを積極的に起用していくべきだと思います。環境業界にビジネスチャンスがあると芸能界に感じてもらうことで、環境意識のあるタレントを育てさせるべきです。
 次世代に対しては、北欧のように幼少の頃から「地上のもので暮らす」(地下資源は使わないという意味)という意識をつけていかないと、なかなかエコなライフスタイル・行動に移らないのではと思っています。

【8. ライフスタイル】

(匿名) W029

昨年 COP21 でパリ協定が採択された。これは歴史的且つ画期的な国際合意であり、環境を意識する立場の人間としては感嘆するばかりである。しかしながら合意は目的ではなく、今後の各国の排出削減の取り組みが本当の意味と意義を表す。世界全体の低炭素社会、脱炭素社会の実現を期待したい。

【1. 気候変動】

(匿名) W030

言い古されたことですが、資源と自然環境が有限であるなかで、どのように途上国(また、先進国内)の「貧困問題」に取り組んでいけばよいのか、いつも考え込んでしまいます。「持続可能な経済発展」は、この課題の解決も視野に入れて進められるべきもの、と考えます。

【10. 環境と経済, 11. 環境と社会】

奥田 郁夫 W031

人間(国家)の欲望(エゴ)で地球は、ますます環境悪化方向に突き進んでいる。
 地球環境面(自然災害等)からだけの一面性では、評価し解決(対策)できない問題が多い。
 例えば、戦争やテロの影響は、凄まじく地球環境悪化に影響を及ぼしている。

【1. 気候変動, 4. 環境汚染, 10. 環境と経済】

並木 慎一郎 W032

我が国は気候変動の影響を大きく受けやすいところに位置している。気候変動の望ましくない影響が少しずつ出てきているといっても実際の脅威はかなり先の話であるので、なかなか真剣に対処できない。ゆるやかに変動は進むがその動きはすぐには止められない。人類、生物にとって極めて深刻な問題だと気付いてから対策を取っても遅いのであって、行き着くところまで進行してしまう。多くの生命にとって悲劇的な成り行きが待ち構えているかもしれない。

気候変動は温暖化も含めグローバルな課題であり、ワールドワイドな対応が必須である。世界中の国が共に対応していく姿勢が不可欠である。そのためには、まず科学的根拠をなるべくしっかりしたものにすることとそれに基づく気候変動の姿を世界で共有できるようにすることが重要である。その上で我々にとっては厳しいであろう対応策を作成し実行しなければならない。何にもまして日本を含めた米国、中国他の主要国が強力なリーダーシップを取り、対策に乗り出さねばならない。果たしてこのようなことが可能なのだろうか。人類の英知に期待したい。

ことの深刻さが現れてから動いたのでは遅いのである。

【1. 気候変動】

内田 啓一 W034

温暖化対策を進める際には、エネルギー安全保障、経済性、環境保全の3つのバランスのとれた視点から考える必要があるが、そのバランスを欠く議論が横行していることを懸念している。

特に再生可能エネルギーへの過度な期待と事故の発生確率を無視した原子力発電に関する議論には大いに疑問を感じている。

また、温暖化対策には長期的な視野での革新的な技術開発が何よりも重要であり、将来の革新的な技術をベースとした経済社会システムの変革を期待したい。

【9. 温暖化対策】

(匿名) W036

環境問題はもちろん深刻だが、単独で人類の生存を脅かすまでにはまだ時間がある。人類が存続できなくなる理由は、むしろ環境問題を含めた現代社会の抱える諸問題が軋轢を生み、日本の場合は近隣諸国との間に生じる国境付近での小競り合い、さらには突発的に被害をもたらすテロリスト集団との対立から起る戦争によるものであろう。特に人口と食糧(水資源含む)に関して解決不能な問題を抱えた中国は、周辺諸国から食糧を不法に奪おうとするので、それを阻止しようとする国際社会との間で戦争になることが懸念される。すでに中国は環境汚染を垂れ流しており、その影響は日本を含む東アジア全体の環境を著しく破壊し、人類にとっては未知の疾病をもたらし、さらに生物資源の枯渇を招くことから、取り返しのつかない惨事に至ることが懸念される。中国政府も同国の人民も公共心に乏しいので、地球規模でのこうした惨事に対して責任を感じる事がなく、この懸念は現実になることが予想される。

人間の欲望がこのまま続くならいつの日か地球環境の限界を超えるのではないかと思います。この危機感を持っていながらも悪なき欲望を抑えられない。今の生き方には限りがあることを人類共通の理念とすべく努力を続けなければならないと思います。それに応えられるのは科学だと思います。今こそ科学が持つ力を発揮すべき時ではないだろうか、原発や紛争に使わないで。

【1. 気候変動, 4. 環境汚染, 10. 環境と経済】

森嶋 彰 W038

地球規模全体から考えると、気候変動の問題は深刻だと思う。オゾンホールや酸性雨の問題や温暖化対策への遅れは、関連しあっている。地球規模での食糧問題は、経済的な先進諸国と発展途上にある国々との落差が大きい。先進諸国の自然エネルギーへの転換問題を進めなると、ライフスタイルを変える必要がある。そうしないと発展途上にある国々は食糧問題だけでなく、経済的貧困や社会体制での矛盾も容易に解決していかない。

【1. 気候変動, 4. 環境汚染, 7. 食糧, 8. ライフスタイル, 9. 温暖化対策】

木全 清博 W040

昨年の広島土砂災害は身近な問題であった。これは気候変動を起因とする局地的集中豪雨と、無計画な宅地開発による土地利用の混乱が遭遇することによって生じたものと理解している。一方、生物多様性の減少は気候変動による環境変化を測る確かな事象であるが、このことは無計画な土地利用、すなわち人工化による人間社会と生物界の間に形成される厚い壁によって加速される。気候変動、土地利用、生物多様性は密にリンクして人間社会の持続性に対する危機感を加速させるものと理解している。

【1. 気候変動, 2. 生物多様性, 3. 土地利用】

(匿名) W041

結果としての地球環境問題も重大であるが、人々の日々の生活の困窮や不安が、さらに環境問題を助長するという側面が強く出てき始めているように思われる。

【1. 気候変動, 5. 水資源, 6. 人口, 7. 食糧, 9. 温暖化対策, 11. 環境と社会】

(匿名) W042

比較的富んだ社会では食料が余剰となっており、貧しい社会では食糧が不足している。農産物貿易を自由化しても解決できない食料の偏在が益々激しくなる。

【7. 食糧】

(匿名) W043

昨今の中東やヨーロッパでのテロ事件やISとの戦争を見ていると、環境変化が人間の存在に与える影響の大きさより、人間自身が自らを滅ぼす脅威を強く感じる。昔から言われているように、現代に生きる人間は、あたかも大量に自死に向かって進んでいくネズミの群れのようなのである。米国をはじめとする超大国不在の今こそ、国連がその力を発揮して地球の持続可能性を保つ努力をすべきではないだろうか。

【12. その他(テロや国際紛争などの戦争)】

(匿名) W044

気候変動や生物多様性に象徴される地球環境問題の危機はますます深まっているように思われる。パリ協定などの温暖化対策に一定の前進はみられるものの、地球環境の悪化に歯止めをかける水準には達していない。地球環境問題にバックキャストिंग的手法が提起されているものの、地球レベルでの目標設定を国・地域・個人の政策や実践に落とし込むという手法には限界がある。むしろ持続可能な開発のための教育(ESD)の主体が個人や地域であることに注目し、人々が主体的に環境問題に取り組む市民教育にこそ力を入れるべきであろう。

【1. 気候変動, 2. 生物多様性, 9. 温暖化対策, 12. その他(持続可能な開発のための教育(ESD))】

朝岡 幸彦 W045

マクロ的には、世界的な異常気象の断続的発生に対する国際的協議が中途半端であることは否めない。一方ミクロ的には、一般市民に対する情報の非対称性が明らかである。

たとえば、

- ①気候変動が及ぼす負の経済効果が明確にされていない、
- ②人々の生活に及ぼす経済負担が打ち出されていない、
- ③気候変動の予測のみに始終して、対策・政策などが知らされていない。

気候変動と市民生活の関係が明確にリンクされてこそ、市民の環境意識が高まる。気候変動の問題はミクロからマクロにボトムアップであって、マクロからミクロへトップダウンではなんら根本的な問題の解決にはならない。

【1. 気候変動】

(匿名) W046

地球の温暖化が原因とみられる気候変動は、待ったなしの感がある。気候変動は干魃や長雨、あるいは巨大台風など、これまでにない大きな災害を起こす。また、気候変動にが原因と思われる地球温暖化により、氷河や局地の氷の消滅により、変化が加速する可能性がある。これらは、短期的には変化が見られないものであり、ある閾値を超えた瞬間、急激な変化が起こると言われている。農業・漁業に与える影響は中・長期にわたる懸念材料となり、人類の生存をも脅かすものとなると考えられる。したがって、国際的な協力体制の元、各国の総合的な政策による不断の努力が必要になる。例えば、エネルギー施策もそのひとつである。再生可能エネルギーに対する支援と同時に、化石燃料に対する税率を上げるなどがある。いくつかの政策的パッケージングが重要になるのではないだろうか。

【1. 気候変動, 7. 食糧, 9. 温暖化対策】

(匿名) W047

TV番組で温暖化に対する懸念を放送することが多いが、それならTVを消すよう呼びかけるべき。報道機関は危機を煽るばかりである。一方、わが国で温暖化を問題視したのは、電力会社が原子力発電政策を進めたことからと書いてある本もあった。その見解も正しいと思える。温暖化や気候変動に関する情報が過多であるが何が本当なのか、利害関係者の意見ばかりであり、科学的根拠が示されているとは思えない。温暖化による人間にとって好ましいこともあるのではないかと。

【1. 気候変動, 9. 温暖化対策】

(匿名) W048

「環境汚染」の例示の中に放射性物質が含まれていないのが奇異に感じられました。

【4. 環境汚染】

(匿名) W049

毎年、世界中の広範囲な専門家による地球環境に関する認識の集計結果等をお示し頂き、有難うございます。激化しつつある最近の世界情勢と結果としての環境破壊の現実を踏まえて、子々孫の世代以降の地球環境の展望を考える時、ことによると、最近我々は重要な複数の点を外して、「脱炭素」など一点に絞って、地球環境問題を観て来るようになってしまったのではないかと感じることがあります。地球環境問題というと自然科学的世界を思いますが、人間・人類を主役とした地球社会環境の方にも、重大危機が加速的に迫っている様に感じる専門家も多いのではないかと感じています。勿論、自然科学的なオゾンホール現象や地球温暖化現象等も今後の重大課題であり続けると思います。他方、戦後（特にベルリンの壁崩壊以降）継続されて来た地球人類社会の安定が損なわれ「文明の衝突」が現実化しつつあり、地球社会環境問題認識と解決の方にも多くの人的資源を割いていく必要性が表面化していると感じます。自然科学的地球環境問題から人間社会的地球環境問題への、現代を生きる我々が取り組むべき主課題のパラダイムシフトの時期かもしれません。今回選択させて頂いた3点については、以下の様に感じています。①環境汚染：核兵器・核廃棄物・化学兵器・生物兵器等の大量破壊兵器自体や原材料・物質などにより、地球規模の人類社会環境に対する大規模環境汚染（破壊）が迫っている様に思います。原因には諸説ある様ですが、世界的規模の伝染病拡大という環境破壊も含まれると思います。②環境と社会：世界の人類社会全体に広がる格差拡大は、南北国家対立のみならず、米国や中国などの国内でも激化する政治的対立の原因となって来ている様です。これらの格差は、従来は経済的格差のみが注目されて来ましたが、シリア・イラク・リビア等の都市の廃墟等と多くの難民の発生等の根本にある「安全・安心の格差」も、地球規模の人類社会の環境悪化原因そのものだと思います。③想定外激甚災害とレジリエンスの後退：益々過酷化する様子が見られる自然災害に伴う地球人類社会の環境破壊の規模は巨大化・長期化しつつあります。安全・安心を求める住民の長期避難などは②の紛争難民と類似していて、環境破壊対策は、地球人類社会規模で優先的に備えるべき課題だと思います。かつてのローマクラブの指摘を最近特に思い出しますが、いよいよ、地球自体の自然科学的激変に加え、宇宙船地球号に乗船する人類社会の乗船区域での限界が、多方面で観えて来ている様に思います。「地球人類社会環境の安全保障」に焦点を当ててゆくことが重要となって来た様に思います。勿論、その中には、「人間の安全保障」も含まれますが、待った無しと思う人は多いのではないのでしょうか？尚、誤解を避ける為、「脱炭素」等の自然科学的変化への対応そのものの必要性を否定しているものではないことを、繰り返させていただきます。**【4. 環境汚染, 11. 環境と社会, 12. その他(太陽活動活発化・マントル活動活発期・移動プレート復元力蓄積等の結果、想定外規模の激甚災害増加を多くの専門家が警告しています。少子高齢化の結果、防災・避難・復興等が遅延し、環境破壊長期化が懸念されます。)】**

奥村 直士 W051

これからの地球環境問題を考えるとき、人々の価値観の問題を抜きにしては、問題への対応方針や対応の先に目指すべき将来像を考えることが難しくなっている。特に、人々の価値観や規範が対立するであろう問題が生物多様性の保全ではないだろうか。

【2. 生物多様性】

井手 慎司 W053

花の開花、雪の降り方、はげしい雨、寒暖の変化の早さなどなどに気候変動の不安を募らせている。Webで、南極や北極の氷山の状態を調べると、明らかに氷山が萎縮していくのが観察される。地球の誕生は、約46億年前とされている。その後約38億年前に生命が誕生し、生命は進化を重ねて、約600万年前に人類が誕生したと考えられている。このことから、進化的に見るならば人類は自然の「一部」であると考えられる。つまり、人類が環境破壊を進めることは、「自らの誕生の地」自然をその根本から破壊していることになる。知能を発達させてここまで進化してきた人類が、持続可能な社会をつくる方向に転換できるのは何時になるのだろうか？

【1. 気候変動, 2. 生物多様性, 4. 環境汚染】

宗宮 弘明 W056

地球環境問題について、ライフスタイルの多様化に伴う変化、今後の少子高齢化に伴う人口問題など、社会情勢に応じ環境へ大きく影響を与えている。環境教育の充実により、問題意識と個人ができることへの対応など、より一層の取組を図って行くことで地球規模の環境問題への改善に繋げていくことが必要と思います。

【1. 気候変動, 3. 土地利用, 8. ライフスタイル, 11. 環境と社会】

(匿名) W059

このアンケートに回答している時期（つまり3月下旬から4月上旬）は、毎年のように体調不良に悩まされます。花粉症もあるのですが、それ以上に大陸からの越境物質の影響を大きく受けます。ひどいときには、空が黄色く霞みます。自分たちの、あるいは国としての努力では「いかんともしがたい」問題です。

人口問題は、ここでは人口増加に視点があてられています。しかし、地方では、今は人口減少が大きな問題です。社会機能の維持という観点からも、大きな問題です。

【4. 環境汚染, 6. 人口】

(匿名) W061

昨年12月のパリ合意は世界のほとんどの国が自主目標を設定し取り組むことに合意した意味で温暖化対策の進展を示すものとして評価します。しかし、温暖化を防止するために必要とされる温室効果ガス削減目標との乖離が大きく不十分なものとなっている。今後、各国の削減対策の見直し、強化が不可欠である。その際、今回のパリ合意のように全員参加の枠組みを維持しつつIPCC報告が示す長期の削減目標に必要とされる世界全体の削減量と各国の削減目標との整合性を確保する手法の開発が重要と思われる。まずは科学者の叡智を結集するIPCCで検討を急ぐとともにその結果を各国が尊重し実施に移す合意を得ることが必要である。

【9. 温暖化対策】

山口 務 W062

私が住んでいる岩手県盛岡市でも、次の事象に触れるにつけ、気候変動が確実に進行していることを実感しており、息の長い対策を早く打つことが必要と考えている。

○夏季におけるゲリラ豪雨の発生

○四季を通じて、気温が高くなっていること

など

【1. 気候変動, 9. 温暖化対策】

(匿名) W063

現在その進行が目に見えて明らかな生物多様性の急激な低下・喪失の問題は、地球全体の生態系の不安定化に直結することが強く懸念される。その最大の原因は明らかに、生物のひとつの種としては現時点でまさに「一人勝ち」状態にあるヒトの、個体数すなわち人口の、環境収容力を超えた急増である。その結果として水資源の供給源の破壊をはじめ復元力を超えた環境の変質、食料をはじめとした資源の枯渇が引き起こされ、地球規模での極端な気候変動にも結びついていると考えられる。われわれは他の生物と同様、長期にわたる自然淘汰の下での進化により、生来、子孫を増やし自身の血族の増加・繁栄をはかるように作られてきている。このような進化の方向性は、単一の種の際限のない増加が、その住む環境・生態系の中で一定の個体数調節機構のコントロール下にある限りにおいては、生息場所全体に対し不可逆的でカタストロフィックな影響を及ぼすにはいたらなかった。しかしながら進化によって高度な知能と血族繁栄へのあくなき欲望を同時に獲得してしまった結果としてヒトは、生態系・食物網中で、決定的な捕食者（病原菌なども含む）のいない、上記のように利他的には「一人勝ち」の状態になってしまった結果、地球の生命の大半（もしかしたら全部）を道連れとした滅亡への道を進んでいるように感じられる。

このような現状を切り替え、滅亡への到達を防ぐには、きわめて困難ではあろうが厳正な法秩序の確立のもと、後先のことを考えない無計画で破滅的な快楽・繁栄の追求を放棄し、持続的な資源利用によって成立する範囲で総人口を維持し、ライフスタイルもこうした趣旨に沿うものとなるよう、厳しく管理されるしかないで

あろう。あと、化石燃料の過剰利用の結果が、地球規模の気候変動の中でも最も象徴的とされる温暖化につながっていることは、もはや否定しようのない現実と考えられる。この問題の抜本的解決と、今のような便利な生活の引き続きの享受を両立させるためには、核エネルギーの利用の持続とさらなる関連技術の開発が欠かせないと見る向きが多い。しかしながら 20 世紀に始まる数次にわたる核に起因する災厄、そしてヒトの生物であるが故の自己管理能力の限界を考え、ひとたび核による災厄が生じた時の影響の規模や内容も併せ考えるならば、その先にある生活が幾ばくか不便で不快なものになろうとも、これ以上核エネルギーに手を伸ばしてゆく姿勢は、根本的に改めるべきと考える。

これから先、さらに発達した科学技術・人知を総結集してさえ避けようのないこの世界の終焉が来るはるか先まで、この地球の息吹が途絶えることのないことを、望むばかりである。そしてその行程において、生物多様性の存続は、その好適な指標となり続けるであろう。

【1. 気候変動, 2. 生物多様性, 6. 人口】

太田 英利 W064

気候変動の進展を阻止するには、エネルギー政策を国際規模で見直し、CO₂ 排出を阻止しなくてはならない。そのために核燃料に頼ろうとすることは、特に我が国の場合あらゆる面で破綻をきたしている。ここは地味で進展速度は遅いが、いわゆるクリーン・エネルギー（水力・風力・太陽光・地熱）の利用拡大に専心努力すべきである。

【1. 気候変動】

(匿名) W065

人類が環境に影響を及ぼしている行為のほとんどが土地利用に関連しています。過剰な窒素やリンによる汚染も農業生産や水質浄化の礎である森林の破壊であり、水資源の枯渇、食料生産の偏在、人口問題へとつながっています。気候変動の原因は化石燃料の消費ですが、背景には森林破壊があり、対策としても化石燃料から再生可能エネルギーの利用といったライフスタイルの転換と、それに付随する土地利用の再構築・地域活性化（特に地方農山村の）による持続的発展が鍵となります。生物多様性の低下も人類の過激な土地利用が主な原因であり、土地開発だけでなくモノカルチャー的な農林業や生産性向上も、将来の人類が知りえていない資源を失わせています。土地利用という観点から、環境と経済・社会を見直し、科学技術も土地の有効かつ持続性のある利用法の開発を考察していくべきではないでしょうか。

【3. 土地利用】

戸田 浩人 W066

日本の技術による、新興国を対象とした温暖化緩和を目標としたプロジェクトの実施に従事している。新興国においては「豊かな生活を享受すること」が「持続可能な地球環境」よりも優先順位が高くなっている。このギャップを埋めていくことが必要であり、さまざまな取り組みがなされている。現状、希望的観測も含むが、このギャップは拡大ではなく、縮小傾向にあると考えているが、まだ温暖化の解決に道筋は立っていない。環境危機時計でいうと、21 世紀初頭の「極めて不安」から、「かなり不安」に針が戻ったように感じるが、まだ安心はできない状態にある。

新興国における、「豊かな生活を享受すること」と「持続可能な地球環境」のギャップをどのようにして埋めていくのか？アプローチとして 1. 情緒的な訴求と、2. 環境技術革新、3. 環境技術の適正化が必要ではないか。

1. については、日本のチームマイナス 6% のようなムーブメントが、さまざまな形で広がる必要があるであろう。「持続可能な暮らしは、気持ちがいい、楽しい、クールだ」というイメージ戦略が必要だと考える。

2. 環境技術革新については、再生可能エネルギー、省エネルギーなどに次々とブレイクスルーを起こす必要があるであろう。例えば、蓄電池分野に技術的ブレイクスルーが起これば、特に無電化地域を中心に太陽光発電などの不安定な再生可能エネルギーの導入が加速されるだろう。

3. 環境技術の適正化については、優れた環境技術が、新興国の生活に根付くことが必要と考える。温暖化対策という意味で優れた環境技術は、時に初期費用が高く新興国への普及が困難なケースもある。これを補おうとしているのが、温室効果ガスの削減に「価値」を付与しようとする CDM などのカーボンクレジットであるが、制度的に十全なものではないことが明らかになっている。技術革新だけでなく、技術が普及するための適正化を進めるような取り組みが必要ではないか。近年、クラウドファンディングなどの仕組みを活用して、適正技術を広めるような NGO も登場しているが、こうした取り組みをより拡大していくことが必要ではないか。

結論として、1. 情緒的な訴求と、2. 環境技術革新、3. 環境技術の適正化が組み合わせり、シナジー効果を発揮できるような社会になれば、地球温暖化の進展にストップをかけることができるのではないだろうか。そうした社会の構築に貢献していきたいと考えている。

【9. 温暖化対策】

(匿名) W067

今日の地球環境問題の危機をもたらしている主要要素は以下のとおり。

- ① 科学的知見と一般社会の行動原理の乖離
- ② 暴走する資本主義経済と拝金主義の横行
- ③ 各国国内および国連等国際社会における合理的意思決定の機能不全
- ④ 途上国における深刻な貧困と環境悪化及びそれに対する先進国の弱体化した支援

これらに対しては極めて困難ながらも、global commom sence を共有する「地球市民社会」の形成しかあるまい。この形成には、①、科学と一般市民を繋ぐ、わかりやすく、しかも正確な情報の発信。②、地球市民社会の担い手となる広い視野と偏見なき素直な心を持つ若者の育成、が必要である。

【1. 気候変動, 5. 水資源, 9. 温暖化対策, 10. 環境と経済】

寺田 達志 W068

環境を守る具体的な取組みや意識は、平和な日々の暮らしがあつてこそ。昨今の世界情勢は不安定要素が膨張しつつ有るように感じます。我が国においても人々の不安を煽るような政府やマスコミの姿勢や言動が目につきます。まさしく「環境は政治である」です。

【11. 環境と社会】

坂野 三輪子 W069

途上国の経済成長が急速に伸び、かつての先進国が敬遠したような環境問題が途上国においても生じる可能性がある。特に中国は人口も多いため、その経済規模も大きい懸念される。また地球温暖化のためにこれまで口に入っていた食物の生育が阻害され、食糧問題が生じると思われる。

【2. 生物多様性, 7. 食糧, 9. 温暖化対策】

(匿名) W071

温暖化対策と関連しますが、近年の異常気象については日本のみならず世界各国で発生しており、危機感を覚えています。

CO2 排出や温暖化だけでは説明はできないとは思いますが、出来ることを一つ一つ実施していくことが大事だと考えます。

【1. 気候変動, 9. 温暖化対策】

(匿名) W072

国内的には、福島原発事故の後処理に 50 年と言われているが、最終処分を含めた完全な解決の見通しは不分明。チェルノブイリが事故後 30 年を経ているが、石棺の上に、さらに構造物をかぶせる前段階という状況。燃料の取り出しさえ、まだ始まっていない。これを考えると、福島原発事故の問題は、予期しないリスクを抱えながら延々とかかってしまう様相である。

気候変動、温暖化対策は、地球的な問題であるのは言わずもがな。異常気象からテロの背景にまでなっていることを考えると大変深刻な問題だと思う。内憂外患と言えるかもしれない。

【1. 気候変動, 9. 温暖化対策, 12. その他 (放射能汚染)】

(匿名) W074

ライフスタイルの変化で、日常の生活で生き物を見かけなくなった。

【2. 生物多様性】

(匿名) W075

気候変動や温暖化対策は、検証できない将来予測に基づいており、極めて扇情的にマスコミがあおっている感がある。温暖化が人為起源以上に自然変動に依っているとすると、国家的対策は大きな損失となる。

【4. 環境汚染, 6. 人口, 7. 食糧】

(匿名) W076

地球環境の変化項目の中には、原因系、結果系、対策系などが混在しており、選択の判断が難しい。

気候変動についても、CO2 のために温暖化しているのか、温暖化しているから CO2 濃度が上がっているのか、本当のところは不明である。学者の間でも不一致があり、自己の利益のために情報を操っている節が感じられる。

【1. 気候変動】

(匿名) W077

気候変動下での農業や食料生産は大きな制約を受けるので、その準備は着実に進めておく必要がある。政策的な関心が経済ベースで、TPP 対策などに向いているが、地球環境問題と食糧生産にも研究費を付けて、対策を検討すべきであろう。

【1. 気候変動, 4. 環境汚染, 5. 水資源, 7. 食糧, 9. 温暖化対策】

東城 清秀 W080

人類の歴史を顧みると、地球のサイズに対し今日の人口増加状況は異常である。

天体物理学上の観点に立てば、物理学的な現在の太陽 - 地球系環境は、少なくとも 1 億年は安定的に維持されるだろう。これに比し人口増加は 100 年以下の時間モードで進行している。この解決に迅速且つ抜本的に取組まねば、人類は悲惨な結果に苦しむことになるだろう。

【4. 環境汚染, 5. 水資源, 6. 人口, 7. 食糧】

地球温暖化に対する認識が以前よりやや希薄になっているように感じられます。次世代の生活に大きく影響する気候変動が進んでいるのが非常に心配です。

【1. 気候変動】

真野 弘 W084

人口増加と経済発展に伴い、有限な水資源の減少ならびに一方的な水利用により、人間一人当たりの水利用可能水量が減少し、人類が生存するための「水をめぐる争い」が今後益々増えると考えられます。地球上の水資源量は増えることはなく、持続可能な水利用が必要です。

【5. 水資源】

(匿名) W085

現政権になってから、景気対策の名のもとに環境配慮がおろそかにされているが、このことに対するメディア・人々の危機意識が後退しているように感じられる。

【1. 気候変動, 2. 生物多様性, 3. 土地利用, 7. 食糧, 9. 温暖化対策, 10. 環境と経済】

坪内 彰 W086

人口問題が非常に大きな問題の根源だと考えています。文明の進歩に我々のメンタリティがついていけないのはもう一つの大きな要因でしょう。わたし達は、自分が何者であるのかについて自覚しなければならないのに、今、見える範囲でしか物事を考えられない。これが人類、というか生物としてのヒトの限界なのかもしれません。

危機が見える形で現れてこなければ動かないというのは、危機が認識されさえすれば動く ということなのかもしれません。遅きに失するということはあるでしょうが、

物事を客観的に捉えるという科学リテラシーの基本が共有されるようになれば、あるいは世界は変わるのではないのでしょうか。

【6. 人口】

御園生 拓 W087

福岡に住み始めてから、PM2.5や黄砂などの大気汚染の影響で、呼吸器官や身体に不調が出始めた。ニュースなどで聞くより、実際に住むと、福岡が大気環境の非常に悪い街であることが分かった。

【1. 気候変動, 4. 環境汚染, 9. 温暖化対策】

(匿名) W088

気候変動の影響は、年々顕在化しており、南太平洋の島々水没やヒマラヤ氷河の融解にとどまらず、日本でも夏の高温や集中豪雨のような形で目に見えるものとなってきている。ただし、昨秋に、パリ協定が成立したので、対策の進展によっては、影響の緩和が見込まれる。政府の削減目標を強化するとともに、ライフスタイルの変革によっても、温暖化対策を確かなものとしていく必要がある。

【1. 気候変動】

(匿名) W089

環境汚染への対応は各国で様々な対策が採られていることから、一応の成果が出ていると思う。しかしながら、目に見えにくい化学物質や、PM2.5より小さいナノ粒子による汚染等の課題は残っている。国によって様々な対策が採られているが、気候変動問題のパリ協定のように総合的に地球を一つの共同体として地球環境を管理する枠組がいるのではないかと、思う。物質の国際的な移動が高まり、大気についても地球全体に循環して何らかの影響をもたらしていることは間違いないからである。

最近特に政治の課題が経済に偏っているように感じられる。どこの国でも同じ傾向ではないか。環境は一度破壊されてしまえば、取り返しのつかないことが多い。国際的な経済問題にばかり注目が集まるが、もう一度1992年のリオサミットのような真に環境問題を俎上にあげる枠組が求められている。

【1. 気候変動, 4. 環境汚染】

(匿名) W090

今回示された地球環境の変化を示す項目はすべてが関連を有しており、順位付けすることは難しいと考えるが、私見として、順位付けするとなれば、やはり産業革命以降急速に上昇している温暖化の問題が挙げられる。地上温度の上昇が、急激な気候変動、生物相の変化による食糧問題や人口問題を惹起していることは事実だと考える。このほか、全地球の0.4%とも言われている真水の確保を歯止めとする水源の確保も重要な課題と考えている。

【3. 土地利用, 5. 水資源, 6. 人口, 9. 温暖化対策】

(匿名) W091

地球環境問題とは、主には先進国の人々による快適性や利便性を求め続けた結果であり、それが幾何級数的な

負荷を生じたものである。すなわち、地球環境問題とは、人間活動の肥大化であり、この肥大化を停止縮小することが求められている。ただ、単に停止縮小だけを求めるのであれば、それは極めて厳しい我慢を生むことになる。今、私たちが考えねばならないことは、厳しい環境制約の中で、心豊かなライフスタイルを明らかにし、それに必要なテクノロジーやサービスを生み出すことである。

残念ながら、多くのエコ・テクノロジーが生まれているものの、それを市場に投入しても環境劣化にはあまり効果はないことは明らかである。それは、例えば、エアコンをエコにする等の置き換えのテクノロジーであり、また、大量生産大量消費の構造には何も手を付けず、エコ・テクノロジーを市場投入することが、消費の免罪符となっているからである。

今求められるのは、厳しい制約の中での心豊かな暮らしかたちの創出であり、それに必要なテクノロジーやサービスが求められているのだと思う。

【1. 気候変動, 2. 生物多様性, 5. 水資源, 6. 人口, 7. 食糧, 8. ライフスタイル, 9. 温暖化対策】

石田 秀輝 W092

地球環境問題の本質は基本的には自然資源を収奪していく経済のあり方と人口問題だと思う。生物多様性も水資源も土地利用も食糧問題も、それらを抜きにして解決はあり得ない。

【2. 生物多様性, 5. 水資源, 6. 人口】

小澤 祥司 W093

環境問題に対して、人間は実際に直面しないと危機感を持ってない人が大半ではないかと思う。

特に、気候変動など徐々に変化する問題には頭で分かっているにもかかわらず実際の行動に移せない人がほとんどで、行動に移している人は少数ではないかと思う。

実際、私も環境部門を担当してから環境問題に強く関心を持つようになった、多くの人に環境問題に関心を持ってもらい、実際に行動していただく働きかけを微力ながら続けていきたいと思う。

【1. 気候変動】

(匿名) W094

地球温暖化は、将来的に、地球規模の重大な環境悪化が懸念され、今すぐに世界中で対応しなければならない重大な課題であると考えます。

【9. 温暖化対策】

(匿名) W095

福島事故以来5年が経過したが未だ解決の姿が見えない。放射能という環境汚染に対処する技術的な解決策がない今、人類の持続性を考え、気候変動問題と並行的に認識を新たにすべきと考えている。

【4. 環境汚染】

寺本 佳生 W096

消費と種の絶滅 とくに日本は木材の輸入による森林生態系の破壊、水産資源の枯渇について理解を深め対策を取るべきと思います。

【2. 生物多様性】

(匿名) W098

気候変動の問題よりも生物多様性の危機の方が深刻だと考えています。

【1. 気候変動, 2. 生物多様性, 3. 土地利用, 4. 環境汚染, 8. ライフスタイル, 9. 温暖化対策, 10. 環境と経済】

草刈 秀紀 W099

地球規模での温暖化の進捗により、日本各地で突風、ゲリラ豪雨、豪雪などの現象が年々頻繁に発生するようになり、水害や土砂災害等への影響がでてきている。これらの現象を少なくするためには、緊急かつ広範囲での地球温暖化対策の実行が求められるが、昨今の世界情勢を見ると、中国による無人島等の不法占拠やアラブ諸国におけるISのゲリラ活動や部族・民族間での紛争・戦争が収まる気配を見せないのが現状である。私利私欲、自分勝手な世界観を持つ者がいる限り、大変残念なことではあるが、50年後、100年後の地球の姿を想像できないし、地球温暖化の原因となっているCO₂削減や化石燃料の枯渇問題に真摯に取り組むことができない状況であると感じている。日本人ができることは、将来を担う若者たちに地球規模での環境問題を認識させるとともに、その問題解決への糸口を探り、地球温暖化を極力抑えていく必要性などを世界に向かって発信できる教育を行うことであろう。

【1. 気候変動, 4. 環境汚染, 9. 温暖化対策】

平田 浩二 W100

最近の事象として、環境と経済、社会のなかで、北朝鮮による核戦争、化学戦争の偶発的危機の問題が浮上している。また、中国による、南シナ海の埋め立て問題は、環境破壊の最たるモノである。

【1. 気候変動, 10. 環境と経済, 11. 環境と社会】

(匿名) W101

3、土地利用：東電福島原発事故発生後の除染による土地の荒廃（砂漠化現象）が深刻である。また、除染されずに立ち入りが禁止され手入れされない森林（山林）の荒廃も深刻である。
ジャン・ジオノ著「木を植えた男」に描かれているように、森林の復興無くして全ての環境の復興はあり得ない。
5、3、と同様に水源・湖沼・河川流域・貯水ダムの除染は全く行われていない状況であり、生活圏が除染されても汚染されたままの水や水辺の存在により、生活環境・水環境の回復は元の木阿弥である。
11、「子どもの物理的経済的貧困問題」及び「放射の汚染に伴う子どもの身体的健康被害の危惧とその危惧に対する精神的不安」が払拭されないことへの憤り。
【3. 土地利用, 5. 水資源, 11. 環境と社会】

渡邊 哲 W102

どの課題にも、地域としての多様性があり、危機の概念は地域ごとに大きく異なる。地球環境問題を語るときに、どのように地域の多様性を考慮した表現にするかは重要である。多様性を無視すると危機時刻の意義は薄れるであろう。

【1. 気候変動, 3. 土地利用, 5. 水資源】

(匿名) W103

環境問題に、テロや中東問題が複雑に影響するのではないか。

【10. 環境と経済, 11. 環境と社会】

(匿名) W106

昨年12月COP21において、すべての国を包含する初めての地球温暖化対応の枠組みをきめるパリ協定が結ばれたことは、地球環境の将来にとって、少し明るい兆しと考えられる。ただ、どこの国でも、その国の経済については、右肩上がりの拡大志向を続けているのが現状で、地球環境負荷の増大につながっている。今後人口減少が予測されている日本などでは、縮小均衡を図る政策が真剣に検討される時期に来たのではないかと感じられる。

【1. 気候変動, 10. 環境と経済】

(匿名) W107

気候変動に関しては、きわめて深刻な状態にあるものの、昨年のパリ協定採択、また、中国などをはじめ経済成長を継続しながらも温室効果ガス排出量が横ばいになっていること、その背景には、低炭素に向けた技術開発&普及がビジネスとして成立しはじめ、排出量削減が必ずしも経済的負担と認識されなくなっている変化が大きいと感じる。他方で、森林減少に関しては、気候変動とからめてREDD+などの活動は起きつつあるものの、総じて森林保全に対する投資には魅力が薄く、森林面積の再拡大には向かっていない。その意味で土地利用の方により多くの危機感を感じている。

【1. 気候変動, 3. 土地利用】

亀山 康子 W109

質の良い淡水へのアクセスが多く地域で脅かされていると感じる。生物多様性、食糧生産や人々の健康な生活を維持するためには、淡水が非常に重要な自然資本の一つである。まずは十分な「水」を将来にわたって確保する手立てを考える必要がある。

【5. 水資源】

(匿名) W110

すべての原因は人口増である。人間活動が気候変動を引き起こし、過剰な土地利用や資源採掘で生物多様性を棄損し、水資源へ多大の影響を与えている。「貪欲な資本主義」がこれを加速し、温暖化対策を阻害している。エシカル調達・消費、循環型社会構築等で文明のベクトルを変える必要があり、ようやく世界はその方向性は打ち出した。SDGsとパリ協定である。

【1. 気候変動, 2. 生物多様性, 3. 土地利用, 5. 水資源, 6. 人口, 9. 温暖化対策, 10. 環境と経済】

後藤 敏彦 W111

【1. 気候変動, 2. 生物多様性, 3. 土地利用, 4. 環境汚染, 5. 水資源, 6. 人口, 7. 食糧, 8. ライフスタイル, 9. 温暖化対策, 10. 環境と経済, 11. 環境と社会, 12. その他(1~9は10, 11に起因するし、それは一言でいうと欧米型文明の限界に達している、多分出口がないような気がする。)】

久野 武 W112

近年の気候変動をみると、やはり世界各国が環境保全にもっと積極的に取り組む必要があると痛感しています。

人口急増問題、食糧供給問題などなど、一国の格差社会云々の議論もあるが、教育、経済など等、世界を各国の格差はますます大きくなるように感じられます。

【1. 気候変動, 4. 環境汚染, 9. 温暖化対策】

(匿名) W113

地球温暖化がこれ以上加速すると、気候変動は人間の手に負えなくなり暴走、今世紀中頃には人類の生存条件のかなりが失われる危険がある。

【1. 気候変動】

三橋 規宏 W114

気候変動、生物多様性、温暖化対策、いずれにも関連する二酸化炭素の増加がもたらす海洋酸性化の進行とそれに対する海洋生物の応答に関する知見の蓄積や我が国社会への周知が全く足りないことを懸念している。諸外国ではアウトリーチの教材なども充実している。海洋生物への応答は食料問題やサンゴ礁エリアでは観光への打撃なども推測されるため、知見の蓄積は我々研究者の専門であるので、地道に継続し、社会への周知もシンクタンクなどとの連携により、研究の成果等を積極的に発信したい。

【1. 気候変動, 2. 生物多様性, 9. 温暖化対策】

(匿名) W117

年齢のせいかもしれないが、地球環境問題についても自分の身の回りから演繹する方向で考えるようになった。資源配分からすると、結局は人口問題に行き着くのでないのか。隣国の中国がその対策として‘1人っ子’政策を採ったのは、果たして正しい選択であったのかと考える一方、我が国においては、少子化とともに高齢化が急速に進み、経済成長が減速せざるを得ない結果になったことからすると、最適な人口政策とはどうあるべきなのかと考えるようになった。

その際に、食糧問題も大きな要因を占めることになると思われるし、食糧の汚染への対応をきちんとしてもらいたいと願わずにはいられなくなった。また、我が国は水資源が一見、豊富に見えることから、ほとんど対応がなされていないように思えるが、海外においては、企業、政府ともに戦略的に水資源の確保に力を入れていることを知ると、非常に不安を覚える。

経済力がなければ、効果的に対策を進められないのもまた次事実であると考え。海外の国々との友好な関係とりながら、民間活力を生かしつつ、より良い方向に舵を取ってもらいたいし、国民一人ひとりが置かれた環境を正しく理解し、その中でできる限り有効な対応策としては、どうあるべきかということを考え、議論することが必要なのではないかと思う。

【4. 環境汚染, 5. 水資源, 6. 人口, 7. 食糧】

中川 好明 W118

地球温暖化の進行は明白で大幅な気候変動に直結し、今後一段とわれわれの生活に深刻な影響をもたらすことが予想される。原子力発電による地球温暖化ガスの排出削減がうたわれているが、一方で原発事故の可能性を考えると、重要なベースロード電源として位置づけることは回避しなければならない。大きな電力使用を必要とする工業分野での大規模火力発電は欠かせないが、一般家庭などの電力使用に関しては省エネ、省資源という基調を守り、極力スマートグリッドの活用などを政府が主導して進めるべきである。太陽光発電や風力発電などの不安定さを克服する手段としての蓄電技術の向上も不可欠である。要は省エネの必要性を、地球環境の将来を考える立場から長期的に検討する段階にさしかかっているということである。

【1. 気候変動, 2. 生物多様性, 9. 温暖化対策】

(匿名) W119

先進国の打ち鳴らす気候変動問題への警鐘は、既に豊かになった人々のものであり、昨年9月の国連アジェンダが示す通り、貧困、飢餓、教育などが、まず、対策を打たれるべき課題と考えています。

その意味で、21世紀の南北問題が喫緊の課題であります。

【3. 土地利用, 4. 環境汚染, 5. 水資源, 6. 人口, 7. 食糧】

榎本 晃章 W120

他の人や自然と共存するためには何が障害になっているのか、誰か知っているのかな。

【2. 生物多様性, 8. ライフスタイル】

(匿名) W121

地球環境問題が人類存続の危機につながるテーマの本質は、核兵器、民族紛争、人種宗教の対立、現在直面している問題をすべて超越する人類の英知が求められている。

人類の倫理観、経済活動、社会観、すべての概念が、地球環境問題への対峙をするうえで、無力であることを感じざるを得ない。

このことは、現在の政治体制・社会体制が、核問題・エネルギー問題に対処に窮し、テロの頻発する混乱の中で、一つの方向を示しているのではないか。

人類のさらなる進化が、地球環境問題への対処の中で試されている。

【1. 気候変動, 3. 土地利用, 9. 温暖化対策, 10. 環境と経済, 11. 環境と社会】

(匿名) W122

人口が増加している国においても、人口が減少している国においても、人口の都市集中が起きており、そのことが地球環境の質の低下につながっているため、人口集中の防止策が必要である。

【3. 土地利用, 6. 人口, 8. ライフスタイル, 11. 環境と社会】

(匿名) W123

気候変動に関しては異常気象なども観測されてきている。ただ、日本では地震による災害、原発のメルトダウン、火山の噴火などもあり、どちらかといえば気候変動以外に社会の関心が移っているように感じている。気候変動は、地球的な問題であり継続して優先して取り組まなければいけない問題であり、そのことを忘れてはいけないと思います。

【1. 気候変動, 10. 環境と経済】

(匿名) W124

パリ協定の採択により、世界の温暖化対策に明るい兆しが見え始めたが、これからが正念場。化石燃料に依存した経済社会を転換できるかが問われている。変革には痛みが伴うが、今の痛みを理由に問題に向き合わないのは愚かなことである。経済界には、現状の変更に潜在的な反発があるが、変化を先取りした企業が栄えてきたという歴史的事実に目を向けるべき。温暖化問題は、つまるところ、人類が賢いのか否かが問われている問題と思う。

【1. 気候変動, 9. 温暖化対策, 10. 環境と経済】

(匿名) W125

地球の平均気温は引き続き上昇しており、地球温暖化に伴う異常気象現象も減少していない。

日本に関しては、東日本大震災を契機とした電力不足により省エネ意識は向上したが、脱化石燃料が大幅に進捗しているとは言い難い状況にあると認識している。

一戸建ての住宅の屋根には太陽光発電設備の設置が可能であることから、例えば、一戸建ての住宅には太陽光発電設備の設置を義務付け、一戸建ての住宅の所有者による共同会社を設立し、当該地域内での電力供給事業を営めるようにするというのも、脱化石燃料化に資するのではないかと思う。

また、輸送に伴うエネルギー消費量の割合は高くその削減が急務であると考えている。日本では鉄道輸送は旅客輸送が中心となっているが、エネルギー効率に優れていることから、貨物輸送への利用を拡大することが必要と考えている。そのためには、複線化（行き違いのための停車を減少させる）や電化（化石燃料以外の再生可能エネルギーも利用可能）を、国策として進める必要があると思う。

脱化石燃料化は、民間任せにするのではなく、国家戦略として制度的な裏付けを示すことが必要と思う。

【1. 気候変動, 8. ライフスタイル, 10. 環境と経済】

藤岡 諭 W126

現在懸念されている地球環境問題は、いずれも取り組み可能な課題であり、適切に対処すれば今よりも深刻な事態は引き起こさないと期待される。しかし、多くの人々が安心してしまうと、継続的組織的な対策がとられず、壊滅的な状況を迎える恐れもある。かといって、可能性の低い危機を前面に出して危機感を煽りすぎても、人々のストレスは増え、悲観的になって幸福度は下がり、下手をすると効果的な対策の推進に結びつかない可能性がある。悲観論と楽観論の適切なバランスが必要である。

【一】

沖 大幹 W127

大気中の炭酸ガス濃度は、地球規模で年々上がっており、その結果、温暖化による気候変動が、激甚災害を引き起こすリスクが高まっている。

また、中国を起源とするPM2.5や黄砂等に代表されるような大気中の微粒子汚染も健康被害で、より深刻な環境汚染となってきた。

日本では福島原発の事故後5年を経過しても、帰郷できない人が10万人を越えることから、破壊された環境を再び元に戻すのは実に大変なことだと思う。それどころか日本では、原発の再稼働が次々と始まり、人々の安全や環境汚染がないがしろにされ、企業利益に向かって政経一致で突き進んでいる。

一方ドイツのように、福島の事故を契機に自国の原発を廃止し、代替えとして、再生可能な自然エネルギーに転換した。エネルギー政策を根本的に変更し、時系列的に予定を立て、着々と推し進められている。こうした報道に接すると、本当に羨ましくなる。

地球環境問題を取り扱う国際会議では、必ず先進国と開発途上国の利害が付きまとい、どの会議でも国同士のエゴのぶつかり合いとなり、歯痒い気持ちにさせられてしまう。しかし、国同士のぶつかり合いの前の段階として、ドイツのように一国の責任で環境破壊が懸念される問題をきちんと片付けて、他国に迷惑を掛けないことも、真の先進国としては重要なことと思う。

⑧ ライフスタイル

環境問題の解決のためには、行政の取り組みだけでなく、さまざまな主体が自主的・積極的に行動する必要があるため。

⑩ 環境と経済 ⑪ 環境と社会

天然資源を経済社会において、可能な限り長く、無駄なく利用し、かつ環境負荷をできる限り低減させる取り組みを進め、循環の質を高める必要があると考えるため。

【8. ライフスタイル, 10. 環境と経済, 11. 環境と社会】

(匿名) W130

人口と食料、気候変動の3点のバランスにおいて、人類が持続可能か否か、個人的にはもっと勉強したいと思っています。

【1. 気候変動, 6. 人口, 7. 食糧】

(匿名) W131

地球環境問題は、数十年後の長期課題と一般的に捕らえられていると思います。それが故に、緊急課題と捕らえられず、特に若者の関心が低いのかも知れません。

しかし、途上大国の一部は、将来の資源（エネルギー、水、空質）の問題を見据えて、生き延びるために、領土問題に意図的に発展させている懸念があります。

一発即発の緊急事態にいつつながるかも知れません。

地球環境問題は、ボディーブローで長期的に死活問題につながるリスクを抱えています。一方で、地球環境問題がトリガーとなり、直近の国家安全保障にも大きなリスクを与えているという事実を、広く知らしめる必要があるのではないかと思う次第です。

【1. 気候変動, 10. 環境と経済, 11. 環境と社会】

大場 昇 W132

気候変動の問題は地域や国を超えた全地球的な問題です。日本においても異常気象や生態系の北上など身近にも問題を実感するようになってきました。温室効果ガスの排出と気候変動との因果関係はあると考えて対策を講じることが必要であると思います。

しかし、日本でももちろん取り組みは必要ですが、省エネの進んだ日本の温室効果ガス削減ポテンシャルは低いと言わざるを得ず、日本の取組みは国内では限界があります。

日本の優れた環境・省エネ技術を世界に移転することに日本の役割があると考えます。鉄鋼業においても、中国、インド、ASEAN諸国に技術移転するべく取り組んでいます。

また、温室効果ガスの抜本的な削減は技術革新によってしか解決できないと思います。即効性はなくとも長期的視野に立って研究開発に取り組んでいく必要があります。鉄鋼業においては、製鉄プロセスにおける還元反応に水素を活用する技術の開発に取り組んでいます。

【1. 気候変動, 2. 生物多様性, 7. 食糧, 9. 温暖化対策】

(匿名) W133

気候変動と地球温暖化によってもたらされるリスクのひとつを私の専門分野から言えば、

「下水を飲む」

という言い方になります。

下水処理水の間接的な飲用再利用は世界の各地で実施されてきました。これに対して、下水処理水の直接飲用再利用は、これまで世界で唯一ナミビアで行われていました。その後、2013年になって、米国テキサス州で、世界で2例目となる直接飲用再利用がはじめられ、現在、この分野のホットスポットとなっています。さらに、近い将来、直接飲用再利用の実施を検討している国には、南アフリカ、オーストラリア、米国の乾燥地域などがあり、徐々に事例が増えていく趨勢です。私の講義でも、「気候変動によって、下水を飲む時代がやって来ようとしている」という言い方をしています。

【5. 水資源】

(匿名) W135

地球環境問題が顕在化する背景には、急速な世界人口の増加があり、それとともに1人当たりのエネルギーや水、食糧の消費量も急激に増加していることが大きな問題である。一方で今後益々激化することが予想される気候変動が、水資源や食糧生産に関わるため、人類の生存に危機的影響を及ぼす可能性がある。

本アンケートでは、「地球全体の問題を念頭に置きながら、あなたがお住いの国または地域における環境問題を考える上で」とありますが、この意味があいまいでよくわかりません。地球環境問題そのものではなく、それが日本に波及する問題を対象にしているということでしょうか。地球環境問題を地球規模で捉えるか、日本だけで捉えるかで危機感はずいぶん異なってくると思います。

【1. 気候変動, 4. 環境汚染, 5. 水資源, 6. 人口, 7. 食糧】

個人として、われわれが環境問題に対処する場合、具体的にはかぎられてくる。まず目につくのは省エネ、省資源、即ちライフスタイルの転換である。われわれは必要以上の電気、ガソリン、食料、各種材料を消費していないか。

無駄を省くことはケチなことと理解されているのは問題である。エネルギーや資源は無限ではないことを周知すべきである。ケチな行動をとると、経済成長に悪影響を与える・・・などという意見もあるが、この辺からわれわれの考えを変えなければならない。

省エネ、省資源を次の技術開発に向け、そして次の経済成長につなげる・・・。理屈は単純である。この辺を徹底する仕組みを考えるべきである。

【8. ライフスタイル, 10. 環境と経済】

小池 清 W140

お互いに深く関係している問題を切り分けて考えることが難しい。そのため、そもそも問題設定の仕方に無理があるのではといった疑問が先行してしまう。このような問題、課題にどう向き合えば良いのか、教育や情報提供を含めて考えていく必要性を強く感じる。

【1. 気候変動, 2. 生物多様性, 5. 水資源, 6. 人口】

(匿名) W141

生態系のアンダーユースの問題は、環境と社会の関係を大きく変える可能性がある。アンダーユースは地域ごとの文脈に深く依存するが、そうした文脈依存性の高い領域の研究や実践も重視すべき。

「地球環境問題」としたときに、あまりに世界規模の画一的な問題の認知と「文脈を無視した」研究や実践が目立つように思う。それは個人レベルでも身体感覚を持ってない話になりがちで、結果的に「個人の心がけ」のような道徳に問題をすり替えざるを得なくなるし、道徳にしても実際が伴わない結果になる。

【2. 生物多様性, 3. 土地利用, 11. 環境と社会】

(匿名) W142

現内閣の環境危機意識の欠如、環境保全対策へのネガティブな取組み姿勢に危機感を抱かせられる。環境省(or 環境相?) はあまり機能せず、殆ど存在して居ない感あり。

【1. 気候変動, 3. 土地利用, 8. ライフスタイル, 9. 温暖化対策, 10. 環境と経済】

星野 眞 W144

今世紀後半には世界人口の約7割から8割が途上国に住むと予測されています。さらに、途上国の工業化等による経済成長はますます地球環境問題の解決を困難にすることは自明な事実であると思われます。クズネツツによる環境クズネツツ曲線によれば、経済の水準がある一定の水準を超えると環境と経済の両立が可能となるとされています。勿論、これは仮説ではありますが、世界人口の分布と途上国の発展を考えると、今世紀中にクズネツツの提唱する環境と経済が両立する水準に達するのは極めて難しく、そのためには、温暖化対策の国際的メカニズムのみならず、地球環境システムのための包括的メカニズムを構築することが必要不可欠であると考えます。

【1. 気候変動, 6. 人口, 7. 食糧, 9. 温暖化対策, 10. 環境と経済】

(匿名) W146

人口の増大を防ぐことができれば、他の項目に関する問題のほとんどは自ずと解決できる。戦争による一時的な人口減少は、その後の人口増大につながるだけであり、何の解決にもならない。先進国は途上国の人口増大につながる一切の活動をしないよう取り組む必要がある。また、先進国自体の人口は各国の責任において徹底した抑制を図るべきである。近視眼的な年金問題等のために人口増大を進めることはあってはならない。人間本来の平均寿命を考慮した上での医療政策も検討すべきである。

【6. 人口】

(匿名) W152

水環境については日本ではその質、量について概ね問題とはなっていないが、世界を見た場合には量的にも、質的にもまだまだ課題があると考えられる。特に量的な問題は、気候変動により今後どのように変化するかは地域により一定の方向性が示されているところであり、早期に適応策を検討していく必要があると考える。

【5. 水資源】

(匿名) W153

気候変動は、食糧問題や環境・社会問題へと発展する。

環境と社会では、宗教とも関係して統治体制の偏りにより民族問題や人の大量移動が生じ、社会不安を増長して、地域紛争を招く。

【1. 気候変動, 11. 環境と社会, 12. その他(地域支配/権力体制 発展途上国→中進国→地域影響国へと発展してきたとき、統治形態や経済体制が周辺国と親和していくかがカギで、親和が得られないと摩擦が生じ、地域

紛争へと発展してしまう。】

(匿名) W154

5年前の東日本大震災と、続く福島第一原発事故の教訓がまったく生かされず、国内のエネルギー対策が国際的な潮流からどんどん取り残されていることが、特に不安。

【1. 気候変動, 4. 環境汚染, 10. 環境と経済, 11. 環境と社会】

(匿名) W155

災害・防災の観点から、対自然の雰囲気がありますが、人間の生活は自然に支えられているということ、意識する必要があります。その認識が急速に薄れ、安全・安心のためなら、自然を制するという雰囲気が強まっている印象を持つので、生物多様性の面で危機時計は進んでいると考えます。

【2. 生物多様性】

(匿名) W157

無秩序な都市化は、環境破壊につながり、ひいては生存を危うくする。

【3. 土地利用】

(匿名) W158

国際的な温暖化対策では各国の利害が関係し、なかなか進んでいない。今後もこのことが続くあるいは、経済発展を優先し、温暖化対策が逆戻りする可能性すらあると危惧される。

【9. 温暖化対策】

(匿名) W159

近年、気候変動による様々なリスクに直面する機会が増え、研究の面でも進展が見られる。また、パリ協定の締結など、ある意味では画期的、歴史的な転換点を迎えつつあるように思われる。一方で、日本のエネルギー政策に関する議論などは、そうした流れとは逆行するような認識がまかり通っているようにも見える。その意味では、どのように持続可能な社会への転換を果たすのか、さらなる議論の深まりを期待する。

【1. 気候変動, 2. 生物多様性, 3. 土地利用, 5. 水資源, 11. 環境と社会】

窪田 順平 W161

気候変動などについて政府が納得できる説明とともに適切な対処をしてくれることを期待しているが、環境と社会、環境と経済の何れの観点からも政府の姿勢が信用できない。

【1. 気候変動, 10. 環境と経済, 11. 環境と社会】

(匿名) W162

地球環境問題は、具体的に目で確かめられないため、抽象的なレベルでの危機感となってしまう。また、さまざまなことが絡み合っただけで問題が生じるために、その構造を認識しづらいということもある。

それだけに、教育の果たす役割が大きいのだが、これまでほとんどその自覚がなかったように思われる。

しかし、次期の教育課程ではこうした観点が重視されそうであるので、実践レベルでのその徹底を図る必要があると考えている。

【1. 気候変動, 10. 環境と経済, 11. 環境と社会】

(匿名) W163

気候変動問題に関して昨年12月にパリ協定が合意されたことは評価できるが、各国の任意の取組の積算が気候変動に対する抑制効果を持つように各国が積極的に取組みを加速させることが極めて重要である。しかしながら、現時点では今後そのような方向で国際社会が動くか否か、不明確である。この観点からは、環境危機時計の時刻算定にあたって、現状の結果だけではなく、将来予測の結果についても考慮することが必要と考える。

【1. 気候変動, 9. 温暖化対策】

(匿名) W164

生命の危機に関わる自然災害や犯罪や紛争などに対する社会不安の軽減・解消に向けた対策の重要性が増していると思われる。

【11. 環境と社会】

石田 憲治 W165

気候変動に対する準備は必須であるが、現在さかんに言われている「温暖化対策」の実効性には問題があると考えています。費用対効果の観点からは、無理なCO2削減等は良いとは言えないでしょう。それよりも、気候変動によって引き起こされることが予想される災害に対する準備が優先されるべきであると思います。具体的には、水害等に対するインフラ整備、環境ストレスに強い農作物の普及などが考えられます。

【1. 気候変動, 6. 人口, 7. 食糧】

(匿名) W166

温暖化に伴う集中豪雨等による被害の拡大や台風の巨大化、竜巻の発生が国内においても年々増加しているように感じられる。

地球は一つであるため、全ての国が共通認識を持ち、地球温暖化防止に努めるべきであり、これからの若い世代の方々にもっと認識してもらうよう教育にも力を入れるべきと考えます（例えば小学校から「環境」という科目を作ることがあっても良いと思います）。

【1. 気候変動】

(匿名) W167

気候変動による食糧減産が局地的に発生することが懸念されます。食糧危機とまでは言わないですが、世界の食料安全保障に日本が関わることは重要だと思います。

【1. 気候変動, 3. 土地利用, 7. 食糧】

(匿名) W168

これまで何回も科学者から強い指摘を受けているのに政府が対応しないのは、人々の意識改革が不十分なため。政治を動かすような社会の危機意識が醸成されるよう教育、普及啓発を進めることが必要。特に、未来を担う若い人たちの意識改革が不可欠。

パリ協定の合意は経過段階のもの。それが実現に移されるまで今後数年間の交渉が必要であることを明確に認識しておくことが不可欠。

絵に描いた餅にならないよう2℃目標の達成に至る道筋をきちんと議論することも重要。

【1. 気候変動, 8. ライフスタイル, 11. 環境と社会】

鈴木 克徳 W169

いずれの項目も喫緊の課題であるが、日本では生物多様性の問題の危機感が薄いように思われます。

【2. 生物多様性】

堂前 雅史 W170

新しい生物の発見はほとんどなく、乱開発による生物多様性が失われていくのを一番心配している。

【2. 生物多様性】

(匿名) W171

気候変動が強く表れ地球環境の変動幅が大きくなっており、世界規模での気候変動に耐えうる食糧供給体制の整備が急務である。また、食糧供給を考慮したライフスタイルの見直しが求められる。

【1. 気候変動, 7. 食糧, 8. ライフスタイル】

浅沼 市男 W172

日本を含めた先進国と呼ばれる地域の大量の資源やエネルギーを消費する社会だと思うが、様々なライフスタイルを見直さないと社会が持続できないと思う。

【1. 気候変動, 5. 水資源, 6. 人口, 7. 食糧, 8. ライフスタイル】

宮里 直樹 W174

地球環境問題は、気候変動、人口問題、食料問題など多岐にわたっていると同時に相互に深く関連している。我が国では、少子高齢化、人口減少によって中山間地等で生物多様性が脅かされるなどの問題が生じているが、全世界的には人口増加により不安定な政治情勢となっている地域が多く見られる。また、気候変動は次第に顕著になりつつあり、今冬は極端な小雪となった。しだいに変動幅が大きくなりつつあり、安定的な農業、食糧生産が困難になりつつあると思われる。

是等の根本原因と考えられている二酸化炭素排出による温暖化は、経済成長とともに着実に進行しているが、福島原発事故以来、火力発電による電力供給に依存しているため、全体として削減を進めるべきという方向にはなっていない。残念ながら国民の「環境」についての関心が低くなっているように思われる。

【1. 気候変動, 2. 生物多様性, 6. 人口, 7. 食糧, 9. 温暖化対策】

渋谷 晃太郎 W175

温暖化対策だけは地域の問題ではなく、地球環境全体の問題です。そのため緊急性を要する段階に至っては既に遅く、気候変動などの兆候が顕在化した段階で方向性を見出し、協調性や妥協性を模索し続ける必要があります。しかしながら世界各国の協議の現況はもとより、日本そのものも先の原発事故に始まるCO2削減への取り組み一つをとっても実質的に足踏みし、ともすると頓挫しかねない状況にあることが極めて懸念されます。世界各国への規範となりリーダーシップをとりうる機会を逸した現状には、今後への取り組みも含めた一層の見直しが求められるのではないかと考えられます。

【1. 気候変動, 4. 環境汚染, 9. 温暖化対策】

有谷 博文 W176

人口爆発、収奪型農業による持続不可能な大地の利用、限界のある化石燃料依存型のライフスタイルは急激に

修正するのは難しく、人類が生存可能な地球環境劣化の進展を止めることは困難と言わざるを得ない。今のペースでは100年単位で消費し尽くす可能性が高い。

【8. ライフスタイル】

井本 浩 W177

地球環境に対する意識に、国や地域による大きな違いが見られる点が大きな問題である。経済の安定を優先しなければならない事情等も十分に理解できるが、一人一人の意識が地球環境を変えていくことを実感する必要がある。新興国だから環境問題は先進国に任せる、というのではなく、どのように最先端の意識をもって国や地域の発展を考えていくか、真剣に取り組むべき課題である。一般に、社会情勢や経済政策に流されがちが環境対策であるが、政策的な局面はその状態だとしても、技術的な局面はより明確に進化させるべきだろう。つまり、政策的、社会的な解決策ではなく、技術的な解決策をもっと前面に押し出して、今後の対策を考えなければならない。その中で、新興国にも確実に活躍の場がやってくるはず。最も危険な状態は、今の中国に見られるような、中途半端な大国意識。中国な巨大な影響力に対して、まったく追いつかない環境対策は、世界の最も危惧するところであり、世界全体が中国政府に対して、適切な方策を取り入れるように圧力をかけていくべきである。もちろん、それに見合う技術的な支援や開発の指導・援助は行わなければならないと思われる。この点は、新興国として発展しているインドネシア等の国々についても同様であり、日本の、特に技術的な分野における、指導や協力は今後、ますます重要になるだろう。

【1. 気候変動, 4. 環境汚染, 9. 温暖化対策, 10. 環境と経済, 11. 環境と社会】

堤 純一郎 W178

温暖化対策を最優先して、すべての国が取り組む必要がある。

【9. 温暖化対策】

(匿名) W180

製造工程のグローバル化で、生産工場が労働力が安く、環境規制による附則設備の少ない地域に移転していく。生産革新などをしていないため、製品生産に伴う環境汚染が軽減していない。

労働者の消費水準向上により、製品の需要を増え、結果として環境汚染は拡大している。

インド、中国の大気汚染はその例である。

グローバル企業にはグローバルな生産（技術・設備）革新を進め、今の現地では利益率の少ない環境・安全に配慮した新工法・設備を提案、実施、製品あたり環境負荷を軽減して欲しい。

【11. 環境と社会】

(匿名) W181

日本特有のことも知れないが、最近では、環境にやさしい製品は、政府や業界が決めた一定の基準を超えていけば良いという方向になっていないだろうか。

基準が存在しないときは、様々な試行錯誤をした製品が発表され、店頭で選ぶのも面白かったが、最近では、ラベル表示で、店員の説明もコスト面を強調した説明するので、面白みにかける。

開発者も、その基準を満足することにしか、興味が無いように思われる。

そのような中で、三菱自動車などの燃費不正は、開発者が最も楽な方法を選択したように思われる。

基準を設けた製品は、メーカーの開発能力（意識？）が下がっているように思われる。

【8. ライフスタイル】

(匿名) W182

地球環境の変化は、すべての要素が複雑に交錯しながら進んでいると思います。

今後重要になるのは、水、食糧ではないかと個人的には感じています。

【1. 気候変動, 2. 生物多様性, 5. 水資源, 6. 人口, 7. 食糧】

(匿名) W184

地球環境の危機を招いているのは、私たち人類の生存様式そのものにあるにも関わらず、それを自覚していないことである。環境と経済と社会の調和の重要性が持続可能性という目標に表されたにもかかわらず、相変わらず経済成長を追い求めることに人類は終始している。自然を破壊し、収奪することを前提に成り立っている現代の人類の生活そのものを見直すことを抜きにして、この危機から脱出することはできない。たとえば、化石燃料の利用が当たり前の前提となっているが、それは地球で人類と生命が持続的に生存するためには受け入れられないことであるという認識をまずすることが大切であり、それを抜きに環境対策をいくら積み上げても効果が上がらないことは、これまでの歴史と現実を見ても明らかである。

【8. ライフスタイル】

仁連 孝昭 W185

世間では地球温暖化ばかりが目されているが、資源循環、生物多様性、涵養などを通じた水資源の保全、土壌汚染や海洋汚染など、全ての環境問題は繋がっていることから、今まで以上に総合的な環境対策が必要であると感じている。

環境保護のための原資は経済活動などから生まれており、「経済」と「環境」が両立できる持続可能な社会を目指す必要がある。また、他国での環境破壊に目をつぶることなく、ESG投資などを通じて経済面・倫理

面から必要な対策を講じる必要がある。

環境問題をコストとして捉えるのではなく、事業を持続していくうえで必要な経費であるということを世界中の経営者や投資家に理解してもらおうと努力すべき。

【2. 生物多様性, 4. 環境汚染, 5. 水資源】

(匿名) W186

・環境変化をもたらす要因は人口そのものとその偏在であろう。
・いわゆる環境側面を考慮したといわれる複合的技術を用いた製品の廃棄に伴う長期的な自然環境への影響、社会的な経済負担の増加が懸念される。

【3. 土地利用, 6. 人口, 8. ライフスタイル】

(匿名) W187

開発途上国で爆発的に増加し続けている人口は、食糧、環境、経済、病気等々の問題を更に大きくすると考えられる。極言すると、あらゆる問題の元凶である。これを抑えるには、規則等で抑えることでは難しく、自発的な行動でしかできないであろう。しかし、これは地球温暖化の防止に対する先進国と開発途上国との対立でもわかるように、なかなか折り合うことが出来ない問題である。

【6. 人口】

(匿名) W188

地球温暖化による気候変動が、人口、食糧問題にも関連する水資源の枯渇問題の原因となっている。しかし、近年のシェールガス等によるエネルギー危機の緩和にともない温暖化問題に関心が薄れていることは非常に問題である。

エネルギー価格が下がることにより当面困る状況が解消すると、将来の深刻な危機について関心を示さなくなる。

深刻な気候変動が発生しても因果関係が個人のレベルで確定しないので、個人として努力する動機がない。

【1. 気候変動, 5. 水資源, 9. 温暖化対策】

山村 武敏 W189

大雨・洪水等に代表される気候変動は、わが国のように台風や地震の発生が頻繁な国においては、重要な問題だと考えます。さらに関連して土地利用と個人の財産としての土地保有が顕著なわが国固有の土地所有実態と併せると、最終は個人個人にとっての財産(家屋)や国の財政(税)にも大きく影響すると思えるからです。市政の民の生活基盤に揺らぎが出てしまうような気候変動こそ、人類が対処・対策しなければならない最大かつ共有の問題であると確信しています。

【1. 気候変動, 3. 土地利用, 9. 温暖化対策】

(匿名) W190

地球環境問題の多くは、個人のライフスタイルが原因となって発生していると思われます。教育によって、人類がそのことを十分に自覚し、地球環境に優しいライフスタイルに変えていくことを望みます。

【8. ライフスタイル】

大野 栄治 W191

気候変動とその対策は、喫緊の課題であり、昨年、パリ協定が成立したが、これを如何に優位なものとするかがきわめて重要である。

【1. 気候変動, 9. 温暖化対策】

(匿名) W193

これまでのような大量生産・大量消費の経済活動を続けた場合、近い将来、資源が枯渇し、気候変動による影響がますます顕在化することが予測されることから、可能な限り速やかに、地球環境への負担が少ない新たな社会経済システムを導入して持続可能な社会を構築し、次世代へ引き継いでいくことが喫緊の課題と考える。

また、地球環境問題の解決のためには、東日本大震災を契機に高まった人々の環境問題に関する意識を維持・継続させ、一人ひとりが積極的に環境保全活動に取り組むことが重要である。

【1. 気候変動, 8. ライフスタイル, 9. 温暖化対策, 10. 環境と経済】

佐竹 敬久 W195

【10. 環境と経済(経済性に繋がる環境・温暖化対策が重要)】

(匿名) W196

一時期よりも環境問題に対する危機感がうすれているように思える。世界の貧困問題についても同様である。教育・コミュニケーションの仕方に工夫が必要である。環境問題・貧困問題について自分の身に引き付けて捉えられるようにならないと、他人事になってしまう。

【11. 環境と社会】

(匿名) W197

現在の世界木材需要は年間 30 億立米で、50%は植林地からの供給である。世界全体の植林地面積は 264 百万ヘクタールで世界陸地面積の7%である。2050年に世界人口が90億人を超えると言われている、その頃の木材需要は年間100億立米になるとの予測があり、現在の植林地面積からの供給は不可能である。このままの状態だと、天然林への伐採圧力がかかることになる。天然林減少対策の最も有効な方法は生産性の高い産業植林で増加する木材需要を満たす事だと思っているが、植林に対するマイナスイメージが強く、植林が地球環境問題にプラスの影響を与えると考える人はとても少ない。

【12. その他(天然林減少対策(天然林が減少すれば、その分CO2を蓄積できず、地球の気候に影響を与える。乾燥地域と水害に悩まされる地域と二極化する。生物多様性も脆弱になり、森の恩恵を受けていた人々も森には住めなくなる。))]

(匿名) W198

1972年に発表された「成長の限界」による警告は実際の問題となって様々な場面で顕在化している。特に人口増に伴う資源、食糧、水資源の枯渇は、環境汚染と相まって深刻な問題であるにも関わらず多くの分野において何らの措置も講じられていない。「成長の限界」以降、幾度となく言われてきた今すぐに対応すれば間に合う、といういわば楽観的な考えはもはや通じないだろう。悲観的な発言を繰り返すことは「狼が来た」と繰り返す少年の寓話に通じる。現実を客観的に見つめ、的確な対策を講じることのできる指導者の登場が求められるが、それは現代社会の経済成長偏重、工業化志向のなかでは無理であろう。少なくとも環境問題の深刻さをあらゆる側面で明らかにすることが必要だろう。先進工業国においては、ライフスタイルの転換など意識改革を優先し、途上国においては教育の一層の充実を最優先として取り組んでいくことが重要である。環境問題の解決には、経済学、社会学の視点、とりわけそれらの歴史的な経験をレビューし、近未来を俯瞰する政策の検討、そして速やかな実現が必要である。

【1. 気候変動, 4. 環境汚染, 6. 人口, 7. 食糧, 12. その他(過剰な工業化による再生不可能資源(鉱物資源、化石燃料)の枯渇、この問題は他の地球的規模の環境問題と密接に関連している。)]

押谷 一 W199

少子高齢化対策が望まれる。

【6. 人口】

(匿名) W201

食の安全と土地利用における環境面への配慮が、今後の世界秩序の中でないがしろにされてゆく不安を感じる。

【3. 土地利用, 7. 食糧】

(匿名) W202

【1. 気候変動, 7. 食糧, 9. 温暖化対策, 12. その他(放射性廃棄物の安定処分とエネルギー多様化)】

(匿名) W203

近年、気候変動と思われる現象が多発しているため、これらの要因を明らかにし、対応策を確立する調査・研究を推進していく必要があると思います。

また、近年の少子・高齢化傾向は、多くの分野へ極めて大きな影響を与えています。これらの問題に対して、官民合わせて積極的に取り組んでいると思われませんが、なおいっそうの取り組みが必要だと思います。

【1. 気候変動, 6. 人口, 9. 温暖化対策】

中澤 隆雄 W204

自然環境を生活との関わりのなかで実感できる機会が少なくなってきている。こどもの頃からそういう生活を送る人が増えることで、自然に対する共感とか、理解が表面的になるのではないかと危惧しています。そうなることで、自然保護を自分とは遠い世界のことと捉えてしまうこととなります。

自然のことが理解できないと、自然保護に関わる仕事につく人も減ってしまいます。

【11. 環境と社会】

坂田 裕輔 W205

環境問題のうち、五感に訴えにくい問題と考えます。

越境汚染も 各地で(地球規模で)起こっています。

さらに 注意喚起されるべきでしょう。

【12. その他(大気環境)】

中山 榮子 W206

すべての環境問題に危機感を持っている。

環境と経済の問題は大きな課題である。GDPを指標とする経済活動の評価を続ける限り、環境は良くならなれないと思われる。消費だけでなくストックも併せて評価する経済指標の開発と提言を望みたい。

【1. 気候変動, 2. 生物多様性, 3. 土地利用, 4. 環境汚染, 5. 水資源, 6. 人口, 7. 食糧, 8. ライフスタイル, 9. 温暖化対策, 10. 環境と経済, 11. 環境と社会】

松尾 友矩 W207

昨年末に気候変動枠組条約 COP21 でパリ協定が採択されたことは人類社会において画期的であり、気候変動問題がいわゆる地球温暖化の問題のみならず、人類活動のあらゆる領域と関わっていることが国際社会の総意として認められたことを意味する。今後ますますコミュニティ、国、地域、グローバルの様々なスケール・レベルにおいて、人類活動のあり方を自然生態系との関係から見直していくことが必要であり、「人類世」「新人世」といわれる現代において、先進国、新興国、途上国の枠組を越えて、みなで知恵を出し合って持続可能な社会を創っていくことが求められている。そのためには技術的、経済的、社会的なイノベーションを促進するための制度の構築が不可欠であろう。

【1. 気候変動, 2. 生物多様性, 4. 環境汚染, 5. 水資源, 7. 食糧, 8. ライフスタイル, 10. 環境と経済, 11. 環境と社会】

(匿名) W208

人口×ライフスタイルが地球環境問題発生の原因であり、他は副次的・二次的問題である。人口は既に限界を超え、経済的に豊かな国のライフスタイルも許容の範囲をはみ出し、豊かな人はドンドン増え、内容は更にエスカレートしつつある。人間の欲望を制御することが可能か。気候変動は既に顕在化し、地球は金星化しつつある。

【1. 気候変動, 6. 人口, 8. ライフスタイル】

畚野 信義 W209

現在、日本では人口減少を憂い、出生率を上げるための施策に議論が集中している。しかし、人口浮揚を国の政策目標とすべきではない。

理由の第一は、人口現象は基本的に個人のプライベートな領域におけるさまざまな意思決定の結果であること。国家は、私たちの結婚・出産・家族生活に関与すべきではない。

第二、仮に人口浮揚に成功したとしても、それが社会にとって本当によいことかどうか怪しい。たとえ出生率が上昇しても、それが総人口の増大につながるのは何十年も先のことである。そのとき、人口増加はーたとえ、環境問題のいっそうの悪化によってー望ましくない現象となっているかもしれない。

政府が出産支援・育児支援をするのはよいことである（それは人口減少が止んでも続けるべき施策である）。もっとよいのは、女性が家族や生活にかんする事柄について自ら意思決定をしやすい環境を整備することである。それは、究極的には環境問題にとってもよい政策となろう。

【6. 人口, 11. 環境と社会】

(匿名) W211

上記選択項目に入っていないのが不思議です。

【12. その他(放射性物質による大地と河川、海洋の汚染。)]

(匿名) W212

気候変動 日本だけを例にとっても温暖化の進行に従い、温かいところでできる農作物の北上化が進んでいるように思える。また温暖化に伴い、海面の上昇は続く。近い将来東京湾周辺の水没は遠くない将来に起こる気がします。また特に東京は海面の上昇にともない、都市部の水はけも悪くなるでしょう。これに伴い、地下鉄の水没も起こるでしょう。

水資源 水資源と気候変動とは密接な関係あり。日本は山が多いとはいえ、少しずつ山がつぶされていっている。山の保全に努めるべし。水がなければ農作物育たず食料も減る。

食糧 今ですら日本の食料の自給率は高くない。まだ食料の足りないアフリカ諸国などが少しずつ経済的に発展するにつれ、これらの国々への輸送手段が改良される。これに伴い、アフリカ諸国への食料輸送が容易になると日本への食糧供給も影響を受けてくるでしょう。

日本は目先の経済効果のみを追求せず、将来を見据えるべき。

【一】

小山 孝一郎 W213

▽北極海の氷原の減少、世界的な異常気象の頻発を見ると、地球温暖化の進行が依然として懸念されるので、国際的な温暖化対策のいっそうの推進が望まれる。

▽先進諸国はエネルギー多消費型のライフスタイルから、地球環境にやさしいライフスタイルに改めるべきだ。

▽地球環境へのダメージで最も懸念されるのは、原発事故や核兵器の拡散による核汚染の恐れと考える。特に北朝鮮やIS(イスラム国)などテロ組織の最近の動きは不安を増幅させる。

▽地震国・日本は、福島原発の教訓に学んで、原発ゼロに向けてエネルギー政策を転換するべきと考える。

【1. 気候変動, 8. ライフスタイル, 10. 環境と経済, 12. その他(原発事故の発生と核兵器拡散の恐れ)】

(匿名) W214

福島第一原子力発電所事故を経験したにもかかわらず、経済優先の施策が進められ、再生可能エネルギーへのシフトは進まず、潜在リスクの大きい原子力への回帰が進められようとしている。このような姿勢は、エネルギー問題に限らず顕在化し、環境軽視が国全体の風潮となっている。そのため、貴重な自然など、将来世代へ引き継ぐべき多くの財産が失われつつあるように思う。

【10. 環境と経済】

人口減少が、日本の環境に与える影響について、深刻に受け止める必要があるようだ。人口と環境の関係が問題となるのは、通常人口増加に伴う環境破壊だが、ここではそれとは正反対の、人口減少によって人の営みが行き届きにくくなった自然の質的变化、その扱にくさを考えてみたい。

林業人口の減少などによる人工林の放置林化は、地盤崩壊などの誘因になっていることが、つとに指摘されている。人口減少は、人の世界と野生動物世界の力関係を逆転させてもいる。シカ、イノシシ、サル、クマなど野生動物の領域が拡張し、辺境での農業は、電気柵なしでは考えられない。増加するシカの食害によって、林床の植物の生態系は激変している。

日本の自然は、長年にわたって、稲作農業を中心とした人の自然への働きかけと、自然の回復力との間で、一定の安定性を保ってきた。明治以降、産業社会の進展とともに、都市化現象が起こって自然環境を破壊すると同時に、人口の増加が、野生動物の世界を圧迫し続けてきた。しかし、現在、日本の総人口は減りはじめ、大都市への一極集中は極端化し、地方の過疎化高齢化が、一段と進んでいる。このような社会状況の中で、野生動物の領域は拡大し、自然が放置される度合いが日々増している。しかもその自然は、これまでにあった日本の自然に回帰するのではなく、特定外来種の動植物などが跋扈する、これまでに経験したことがない、新たな自然へと向かいつつある。住宅街や森にアライグマやハクビシン、水中にはカミツキガメやミシシippアカミミガメ、オオクチバス、コクチバス、植物ではアレチウリやブタクサ類。

さらに、気候変動による生態系の変化も、これまでにない自然を生み出す要因となっている。

福島で、放射性物質のために人がいられなくなった地域で起きている自然の変化、それは必ずしも将来は福島だけに限られた現象ではなくなる恐れを感じる。新たな環境問題ではなかろうか。

【1. 気候変動, 6. 人口】

藤原 勇彦 W216

気候変動は現世代および次世代を生きる人類全体のにとっての最重要課題である。IPCC第5次評価報告書等に基づき、気候変動に係る最新知識等を広く一般に共有し、気候変動問題および温暖化対策の重要性・即時必要性への理解を促進し、低炭素社会に向けたライフスタイルのへの着実な変化を誘導することが必要不可欠である。

【1. 気候変動, 8. ライフスタイル, 9. 温暖化対策】

(匿名) W217

現在の地球環境問題を考える上で、避けて通れないのは、生物多様性の喪失の危機である。40億年の生物の歴史を通して形作られてきた生物多様性は、一旦消失すると再現することは不可能である。地球の歴史の中で生物の大絶滅はこれまで何回も起こってきたが、現在の生物の絶滅スケールはそれに比べても桁違いに大きい。この原因は、われわれが引き起こしている地球温暖化、環境汚染、大規模な土地開発という事象に他ならない。これに対して、生物多様性の創成と維持のメカニズムは未だほとんど分かっていない。生物多様性の危機を回避するには、生物多様性の本質的な理解を継続的に進めていくだけでなく、生物多様性の保全の意義を次の世代に確実に伝えていく教育が不可欠である。

【1. 気候変動, 2. 生物多様性, 3. 土地利用, 4. 環境汚染】

大串 隆之 W220

複合的な問題が多いので、項目で答えるのは難しいように思います。

【1. 気候変動, 2. 生物多様性, 3. 土地利用, 4. 環境汚染, 5. 水資源】

(匿名) W222

最近の気象の異常さに不安を抱きます。また途上国における無制限な人口増加により、食料不足や安全な水の確保も困難な状況になっています。教育や啓蒙もせずに当座しのぎの援助をしても焼け石に水となるだけです。かなり以前からユニセフなどが飢えた子どもを前面に出して、援助を要請していますが、いまだに何も解決していません。

また民族問題、宗教問題などで内戦を繰り返している国や地域がありますが、それらの国、地域の指導者は、もはやそんなことに拘って争いをしている状況ではないことを自覚してもらいたいと思います。

【1. 気候変動, 5. 水資源, 6. 人口, 7. 食糧(エネルギー資源の枯渇。)]

山本 晴稔 W223

福島の放射能汚染さえ忘れがちで、再稼働が計画どおり進んでいます。近年の化学物質による汚染へ対する日本人の危機意識の低さは、ちょっと深刻であると感じています。

様々な疾病や症候群が、非常なスピードで激増している、その事実と化学物質、食生活との疫学的検証が求められます。そして、疑わしいと判断された物質は、予防原則に則って、消費者の意思でマーケットからなくすことが必要です。まずは、実績を作る必要があるでしょう。

人口と経済、そして科学技術の問題は、一部で取り上げられたホセ・ムヒカさんの言葉に深い示唆があります。もっともっと社会、とくに子ども達に拡散し、周知する必要があると思います。

【4. 環境汚染】

渡邊 泉 W224

気候変動が大きく社会に影響を与え始めているにもかかわらず、国民のライフスタイルが変化の兆しが見られないことが、非常に危惧される

【8. ライフスタイル】

(匿名) W225

温暖化緩和の実現に向けて、化石燃料に代わるエネルギー資源の現状と見通しに不安がある。

【9. 温暖化対策】

(匿名) W227

人々の地球環境に対する一般的な認識としては、まだまだ甘いのではないかと感じています。

今回のアンケートでの私の回答も危機時刻が10時代半ばとなりましたが、基本的には、危機は相当程度に近いのではないかと思います。11時代半ばを過ぎていると考えても良いのかもしれませんが。それに対し、人間は“何が出来るのか”、“何をしなければならないのか”を真剣に考えなければならないと思います。

「気候変動」の問題を中心に、生態系の問題や水・食料の問題はもとより、環境の越境汚染の問題、都市化、貧困とどれ一つをとっても今アクションを興すべき課題ばかりです。

そのためには、人々が正しい認識を持って行動することが大切です。このアンケートの取組みが、そういった行動につながるようアピールしていただければ幸いです。

【1. 気候変動, 2. 生物多様性, 3. 土地利用, 4. 環境汚染, 5. 水資源, 7. 食糧, 8. ライフスタイル, 9. 温暖化対策, 10. 環境と経済, 11. 環境と社会】

(匿名) W230

生物多様性の減少は極めて深刻な状態です。過去の大絶滅の千倍、一万倍とも言われる速度で生物が絶滅して行っています。地球の命とも言われた東南アジアの熱帯雨林はすでに50%を切りました。アマゾンの森が消えるまであと20年と報告されています。一度絶滅すれば人間が回復させることは不可能であるにもかかわらず、人は生物の生息域を破壊し、種を絶滅に追いやっています。

今の人類は、崖に向かって国家というバスに乗り、経済活動というアクセルを目一杯踏んで、ブレーキを踏んだバスが負けという競争をしています。崖はもう目の前に迫っており、その危機的な状態を生物の絶滅ということが表してしてくれていると思います。人間の経済活動の結果、子供達が地球環境で生きていけるかどうかの指標である生物の多様性が減少し続けています。今、私たちは、目一杯踏んでいる経済活動というアクセルを弱め、ブレーキを踏み、国家というバスを止めて、周りを観察してみる必要があると考えます。

バスの燃料がどこまで持つのか？崖がどこまで迫っているのか？崖から落ちたらバスの乗客は助かるのか？地球環境で生きていくためには、どのような社会を作らなくてはならないかみんなで一緒に考える時に来ていると思います。不可避の事実として、私たちの子供達は私たちが残した地球環境でしか生きていくことはできません。今、私たちの人間活動すべてについて生物多様性保全という指標で評価し、再考し、共に支え合って地球で生きていける社会を考え、行動しなくてはならないと考えます。

【2. 生物多様性】

坪内 俊憲 W231

人類存続の危機に直面していると感じている人は少なくないと思いますので、そのスピードを緩和するには人類のモラルが問われていることになると思います。

【11. 環境と社会】

(匿名) W233

地球温暖化対策や生物保護、影響軽減策、ライフスタイル変革が少しずつ広がっている一方で、もっと強くビジネスに結びつくインセンティブが必要だと感じます。市民が環境改善に貢献しようとした場合、もっと簡便にできる仕組みや、電気を使う際に、エネルギー源をもっと自由に選べる仕組みなども。また、環境問題が教育の場で定着し始めていると感じることもありますが、やはり便利さや高度な技術がよいことという従来の価値観から、なかなか抜け出せないと感じることもあり、息の長い取り組みと、そのための人材育成が必要なのだと思います。

【1. 気候変動, 2. 生物多様性, 8. ライフスタイル, 9. 温暖化対策, 10. 環境と経済】

(匿名) W234

economic growth を「経済成長」と訳す慣習を改めるべきと思っています。日本語で「成長」といえば、それ自体がすでに「望ましい」という意味を含んでいるからです。むしろ「経済拡大」という訳語こそが正確であり、今や「経済拡大」ではなく「分配」こそが問題であると認識すべき環境状況にあるのではないのでしょうか。

【12. その他(「経済成長」の概念)】

織田 創樹 W235

最近の世の中の流れを見ると、環境問題にもつうずるが、このまま流れていくと地球規模での世界はどうなってしまうのか、不安がつのる。

すなわち、

世界的に見れば、自国の利益のみを追求し、他の国、地球規模の全体は知った事ではない、また、今現在が良ければ将来はどうなってもかまわない。

国の単位、さらに小さな単位でとらえても、同じ様な風潮が蔓延しているように思える。

日本政府は地球環境問題への取り組みの必要性を声高に訴えながら、結局は経済優先の施策を続けている。地震や火山噴火、台風、水害など自然災害が多発し、原子力発電利用の不安や反対の声が国民の中に強まっているにもかかわらず、原発を止めようとしないうち。放射性廃棄物の処理問題も解決できないまま、もはや将来性も見通せなくなった燃料サイクル、再処理技術の開発にも何十年も多額のお金を注ぎ込み続けるだけで、いまだにやめようとしないうち。重大な原子力発電所の事故をひきおこし、汚染水の処理もできていない現実を、きちんと受け止めるべきだ。

経済を優先し、新たな開発や建設事業をつくりだすことだけを続けていけば、いつかは限界に達して破綻する。目先の利益にとらわれず、いま苦しい思いをしても、次世代のため、地球環境の未来のために、本当にとるべき道をみすえなければならない。国民もまた、物資やエネルギーの大量消費型の生活を見直す必要がある。

【8. ライフスタイル, 10. 環境と経済】

中山 由美 W237

日本の危機感が低いことをとても懸念しています。国としての対応というだけでなく、それにより日本企業がグローバルに競争力を失うことにならないのか。正しい客観的な事実に基づいた議論を期待しています。

【1. 気候変動, 10. 環境と経済】

(匿名) W239

2011年3月11日に起きた「東日本地震津波災害」の直後には、日本のエネルギー政策として原子力発電利用ではなく自然エネルギー利用への大転換が取り上げられ、日本国内の世論もリサイクルできる自然エネルギーを最大に利用することを支持していました。国際的にはドイツ政府がいち早く原子力発電を取りやめて、太陽光発電や風力発電などの自然エネルギーを利用するエネルギー政策に大転換しました。

日本は列島自体が火山に取り囲まれた陸地であり、地震は日本国内のどの場所でも発生する状況にある中で、日本のエネルギー政策として原子力発電利用ではなく、再度、自然エネルギーへの大転換を真剣に議論する必要があります。

電力資源とその利用方法は地域ごとでつくり利用するというような、地域ごとに特性をいかした自然エネルギーの利用法が考えられると思います。小規模発電でも、ある地域の日常生活に必要な電力をまかなうことは可能です。

数年前にタイ王国の北にあるチェンマイ大学を訪問した際に、チェンマイ大学の学生さんたちと一緒に山村の家に泊まって、そこに暮らしている人たちと交流をする機会がありました。その村では、現金収入がないためには昔にはけしきの花を栽培してアヘンをとり、その収入で暮らしていたそうです。近年になってから、タイ政府の援助をうけてコーヒーの栽培を始めて、やっとうまくいき始めたとのことでした。

水資源としては自然がもたらす雨と、山から流れ出す小さな川のみでした。その村のすべての家の屋根には平らな台が作られていて、大きなバケツが置かれていました。飲み水と洗顔の水、生活に用いる水のすべてが雨水であり、東京で水道水を自由に使って生活している私からしたら「なんと貴重な水であることか」と驚きを禁じえませんでした。100件程の家があるその村の生活で使う電力は、小川につくられた小型の水力発電施設でまかなわれていました。

【5. 水資源, 9. 温暖化対策】

松山 春男 W241

海洋ごみ、とりわけ、マイクロ・プラスチックが、生物に大きな悪影響を与える可能性が指摘されているにもかかわらず、この問題への認識は低く、政府による取り組みもほとんど行われていないように思われる。

【12. その他】

(匿名) W244

70億人を越えた世界人口は今世紀末までに100億人に達するとも言われているが、人口増加に対する有効な対策は見いだせず、ひたすら自然減に転じるのを待ただけの状態である。人口の爆発的増加は地域間に経済格差を生み、貧困や飢餓の問題を悪化させ、これが原因となって地域紛争や内戦を生じる結果となり、戦争難民が増加している。

貧困、飢餓や難民の増加は人口の都市集中を招き、更なる格差の拡大に繋がっている。人口の都市集中はエネルギー多消費型のライフスタイルを進めることになり、これにより気候変動などの環境問題を招き、貧困、飢餓などの問題を益々悪化させる悪循環に陥っている。

民主主義、資本主義経済など、世界秩序の中心と考えられてきたシステムに行き詰まりが見られ、これに替わる新しい価値観が求められているが、今のところ、解決の糸口すら見いだせていない状況にある。

環境問題は人類の将来にとって重大な問題であるが、貧困、飢餓、地域紛争、内戦、難民などの問題が好転し、経済格差の縮小が進まない限り、環境問題に対する効果的な対策は難しいと考える。

【3. 土地利用, 6. 人口, 7. 食糧, 10. 環境と経済, 11. 環境と社会】

(匿名) W245

最終的には持続可能で多様なライフスタイルを開発していく必要がある。各地域での民主的で多様な対話の技

術が不可欠。現在の「経済」の捉え方は不完全で社会の作り方を歪めている。自然の活用の仕方、他の生物の生物圏の保護、廃棄物の廃棄の仕方まで考慮にいれた経済・生産をしないと、未来の世界にツケを回すことになる。

【3. 土地利用, 8. ライフスタイル】

(匿名) W248

我が国の社会情勢は、反原発の声が大きいが、地球全体を考えた場合、気候変動問題はかなり深刻であり、原発の再稼働を含めて国民皆が将来にわたってどう取り組むべきか、真剣に考える時期に来ていると思う。

【1. 気候変動】

浜谷 英一 W249

気候変動については、未だに増大の一途を歩んでると考えられ、ゆえに起こりつつある個々の現象を踏まえた上で、今回はあえて土地利用に言及してみる。

両極化する寒暖差や一気に大量に降る雨（ゲリラ豪雨）は耕作面積の増大というよりは、耕作地の移動を余儀なくし、加えて、ゲリラ豪雨は年間降水量の増大や減少には変化が無くとも、短時間に纏まって降る事により、陸地内から海洋への流出量を増すため、結果的には淡水量の減少に繋がり、淡水不足という新たな地球環境問題に対する対策も必要となる事が予測される。

次に、乱開発による森林破壊に加え、IS等による人為的な戦乱による破壊は、人々のみならず、森林等、自然破壊も行っているという新たな問題も起こしている。

中でも、淡水循環、気候緩和、保湿、大気の清浄化、CO₂の吸収固定のみならず、多きに渡り地球環境のバランスを保全するための循環型機能の一翼を担っている森林の疲弊が、土地利用の仕方そのものによる環境破壊というよりは、土地利用価値を種々の面で減少させてしまうという脅威として、今後浮かび上がってくると予測される。

すなわち、表1に挙げられた1～12の個別の問題点は、どれ一つを取っても、他の11の項目との関連性の中で言及すべきであると考えられる。

【1. 気候変動, 3. 土地利用, 4. 環境汚染, 5. 水資源, 7. 食糧】

今井 通子 W250

地域紛争は直接的な環境破壊であり、中国等の南沙諸島への進出は大きな環境破壊である。また国家間対立が激化すれば相対的に地球環境問題への関心は薄れていく。

【12. その他(地域紛争および国家間対立の激化)】

近藤 裕昭 W251

昨年12月のパリ協定(全ての国が参加、長期目標の設定)で一定前進した。

今後は、緩和だけでなく、適応に関する対応を準備していくことが不可欠であると考えられる。

【1. 気候変動】

永津 龍一 W252

気候の狂暴化による極端な干ばつ、暴風雨などにより生じる農産物不作や災害が一番恐ろしいと思う。

【1. 気候変動】

(匿名) W253

近年、風水害が各地で発生しており、気候変動の影響が以前にも増して顕在化していると思います。これまでの変化の過程を考えると、正常な状態に戻るまでに相応の時間がかかることが容易に予測されるため、政治的な駆け引きは抜きにして、世界各国が一致団結し、一刻も早く対策を進めていくべきと考えます。

また、急速な都市化、我が国で言えば東京一極集中のような傾向が、地球温暖化に少なからず影響を与えているのではないのでしょうか。確かにコンパクトな都市はエネルギー効率が良く、便利さ・快適さの点では住みやすいと言えるかもしれませんが、しかしながら、過剰な人口の都市集中は、交通渋滞や通勤ラッシュ等に見られるように、かえって非効率になっているのではないかと思います。通勤に1日何時間も費やし、それを短縮するために交通機関が整備され、見かけ上は便利な社会になっていますが、そもそもそうまでして都心に通うことが良いのかどうか。都市の最適化を進めていく施策が求められているのではないのでしょうか。

【1. 気候変動, 3. 土地利用, 6. 人口】

桶谷 治寛 W256

軍縮と環境問題に取り組む予算措置

戦争は最大の環境破壊であるから避けなければならない。また、戦争とその準備のため各国は自国の国民生活を圧迫し、人類生存の基盤をなす環境問題に捻出する予算は大幅に縮小してきている。

一方、環境問題に関わる識者の指摘は概ね受け入れられるものであるが、それらを具体化するための予算措置とは独立の議論のように思われる。財政基盤を伴わない議論では、理想的な提案も「提案」のままである。財政措置をどうするか？軍縮である。軍縮が進めば進むほど環境問題への取り組みもすすむ。

SIPRI 報告(2016.4)によれば、2015年度の世界の軍事費は1兆6,760億ドルで、世界GDPの約2.6%である。昨年国連で合意された17項目の「持続可能な開発目標(SDGs)」のうち、予算措置が必要な15項目の達成のためには、上記の軍事費の2/3もあればよいという試算もある。また、各国がそれぞれの軍事費の10%を削減すれば、経済協力開発機構(OECD)開発援助委員会(DAC)が設定した開発援助資金1,372億ドルを上

回るものが得られる。

各国が環境の持続可能な発展をすすめるためには、それらを指南する方策と共に具体化するための予算措置が必須である。そこで環境を守る最大の方法が戦争の防止であることから、軍縮の合意を加速させ、捻出される資金により環境問題の取り組みを進めたい。

【12. その他(軍縮と環境問題に取り組む予算措置)】

湯浅 精二 W258

気候変動は、地球温暖化問題を中心に、極めて深刻な人類の危機であり、新興経済地域の急速な経済発展による食糧・水・石油・天然ガスなどの大量消費型経済社会のあり方が促進している側面に危惧を抱かざるを得ない状況である。またこれら諸資源をめぐる紛争やテロなど、いわゆる地政学的なリスクも高まっているので、紛争とテロを早期に終結させあるいは未然に防止するなど、国際的な平和構築への努力が必要である。日本の国際協力の役割は大きい。

【1. 気候変動, 5. 水資源, 8. ライフスタイル, 10. 環境と経済, 11. 環境と社会(テロや民族紛争(内戦)による難民問題)】

香川 敏幸 W259

・ 国際的な対応取り組みが不十分ではないだろうか？

近年の気候の状況から、温暖化は目に見えるスピードで進行していると肌で実感している。(5月で既に真夏日を観測、冬が暖冬続きである、等)

あと10~20年もすれば全世界的に、人類生存に関わる深刻な問題になるかも知れないと危惧するのはもはや現実的な話なのではないかと思う。現在の環境対策は、個人や企業の活動でなただけ温暖化促進要素を低減しようとする事や環境啓発・教育をする事が主で、温暖化に直接対処するグローバルな科学技術の取り組みといったものはないかと思う。そう言った取り組みを危急の課題として始めるべきではないだろうか。実際のところ、温暖化を科学技術によって阻止しようとするのは全く不可能か否かすらもきちんと解答されていないように思う。

地球という物理系で、過去には寒暖の気候バランスが取れていたのが、ある程度以上温暖化が進行してしまふと、それ以降は加速度的に進行してしまうという事はあり得ると思う(熱エネルギーの収支における蓄積と放散のバランスに関し、蓄積がどんどん大きくなっていくような状況)。産業革命以降、徐々にCO2が増加してきていたのに対し、現状はまだその延長上と言えるのか、あるいは上記の加速度的な進行が始まっているのか、といった評価、あるいは後どれくらいで加速度的な進行が始まるモードになるのか、といった評価は、温暖化を監視する国際的枠組みであるIPCCなどでもなされていないように思う。

・ それでも経済的発展を優先するのか？

温暖化の要因が人為的活動による事は、IPCCの報告書でもほぼ検証された形になったと思う。温暖化を真摯に考えるならば、人間による経済活動はかなり制限しなければならない筈であろうが、なかなか人間は「経済」-モノ・カネの豊かさ-を捨てる方向には頭が働かないというのが現状ではないかと感じている。しかし、経済的発展が1つの最大限の境地に達したバブル経済とその後の「失われた20年」を見るにつけ、世の中は非常にうまく出来ているという気がしている。

経済的発展によるモノ・カネの豊かさの飽くなき追求は、人間の欲望に基づく活動である。その欲望は行き過ぎれば社会的には法律によって制限・処罰されるが、基本的には法律の範囲内でいくらかでも自由に追求して良いことになっている。ただ、そのデメリットの反作用として温暖化がもたらされている事へ、想像力を働かせて認識する事ができるか？という事は重要な問題である。

飽くなき欲望の追求によって何ら罰される事はない。しかし社会の在り方を変えなければならないという段階へ来ている。その善の方向性-理性と良心に基づく-へ社会の哲学を転換できるか!?という問いが人間へ投げかけられているような気がしてならない。20世紀最大の歴史学者A.トインビーは「諸文明没落の歴史からの第一の教訓は、民衆が狭い利己的な欲の追求に没頭して自らのエゴを自制することを忘れるとき、社会は自壊していく以外ないという事である」と述べている。その箴言を、我々はいま重く受け止めなければならないのではないだろうか。(以上)

【1. 気候変動, 9. 温暖化対策, 10. 環境と経済, 11. 環境と社会】

(匿名) W261

食糧供給に不安はない。気候変動はリスクを伴うがコントロール可能な範囲に収まっている。環境汚染はなお生活水準を低下させている。大気汚染および水質汚染は健康リスクは低いもののアメニティの観点から今後大幅な改善を必要とする。

【1. 気候変動, 4. 環境汚染, 7. 食糧】

杉山 大志 W262

近年、集中豪雨や台風の大規模化とともに猛暑日の増加や極端な暖冬といった異常気象や気候の極端な変化が生じつつある。これらは地球温暖化によるところが大きいと言われているが、これらの異常気象は琵琶湖環境に非常に大きな影響を与えることになる。琵琶湖においても2007年の暖冬の場合、全循環が3月下旬まで遅延し、当年の秋以降、深湖底での溶存酸素濃度は低下し続け、貧酸素状態を形成した。このことにより、深湖底の水質および生態系に影響(イサザ、スジエビの斃死など)を生じたことを我々は経験したので、生物多様性について危惧している。また、世界においては豪雨の発生頻度が高くなり、集水域からの突発的な懸濁物質の大量流入が、湖の生態系に大きく影響(動植物プランクトンの生産の減少やその捕食者である魚の生産の減少)するとの報告(Donohue & Molinos, 2009)や、本県においても、濁水がアユに大きく影響するとの報

告（滋賀県水試研報46）もある。

地球温暖化による琵琶湖深湖底の低酸素化や集中豪雨といった異常気象による琵琶湖の水質や生態への影響については、今後ますますその影響度を増すと懸念される。その適応策が求められている。

【1. 気候変動, 2. 生物多様性, 4. 環境汚染, 9. 温暖化対策】

(匿名) W263

地球環境問題を各国の政治や経済の道具として利用する限り、地球全体の環境問題は解決しないと思われる。その顕著な例が、温暖化対策である。温暖化対策の多くは、地球規模ではなく、自国の利益のために、企業の利益のために利用されていることが多い。また、そのために科学データの解釈までもが歪められてしまう。地球規模の環境問題を解決するにはライフスタイルを変えるしかなく、そのためには、国を超えた強い政治主導が必要と考える。

【8. ライフスタイル, 9. 温暖化対策, 10. 環境と経済, 11. 環境と社会】

板倉 賢一 W264

40年、50年前の子供の頃の気候と変わったなと思う最近である。気候変動の影響が異常気象の形で身近な脅威となって現れてきたのではないだろうか。

地球温暖化対策は待ったなしの段階に入っていると言われていたが、パリ協定を受けた2030年、2050年の温室効果ガスの削減に向けた取り組みは、京都議定書の延長線上の普及啓発ではない筈だが、新たな次世代の削減技術を取り入れた経済活動が動き出していない、また、国も国民の真剣に考えてはいないような気がしてならない。

地球規模の環境問題は、同時に世界的な食料・人口問題も抱えており、エネルギー自給率・食料自給率の低い国では、今後の社会構造も変えていかなくてはならない課題の筈だ。しかし、現実にはfan to share, cool choice等、言葉遊びばかりで、実行できる実効性ある施策や対策を政府にも国民にも期待できない。

【1. 気候変動, 6. 人口, 7. 食糧, 9. 温暖化対策, 10. 環境と経済, 11. 環境と社会】

(匿名) W265

地球温暖化問題が待ったなしの状況になっている。このままでは今世紀半ばまでに急激な気候変動が世界を襲い、熱波や干ばつ、洪水、大型台風の襲来など極端現象の多発によって水・食料不足、生物多様性の喪失などが顕著なものになるだろう。数億人にも達するような気候難民が出現し、世界は大混乱状態に陥る可能性も指摘されている。こうした危機を前に2015年12月には気候変動枠組み条約第21回締約国会議(COP21)でパリ協定が採択された。途上国も含めた全員参加で温暖化対策に取り組もうということになった点は評価できるが、各国の削減目標の達成は義務化されない、途上国支援の具体像が見えない、など限界も多い。仮に2016年中にパリ協定が発効したとしても、1.5度の努力目標はおろか、2度目標の達成もほとんど不可能だろう。もう人類は、やがてやって来る気候の暴走に身を任せる以外ないのかも知れない。だが、ここであきらめるわけにはいかない。2度目標は無理にしても産業革命前からの気温上昇をせめて3度以内に抑え、気候変動の影響を最小限にとどめなければならない。それには化石燃料依存から早急に脱し、脱炭素社会を築くこと以外に道はないのではないか。残された時間はあまりないのだが、地球温暖化や気候変動に対する人々や企業などの危機意識を格段に高め、行動に駆り立てるような努力をすることが国際社会や各国政府に求められている。科学者の存在意義もいままに問われていると思う。気候変動に勝つわずかな可能性を求めて、日本を含め世界が立ち上がる時ではないか。これが最後のチャンスだと思う。

【1. 気候変動, 2. 生物多様性, 5. 水資源, 7. 食糧, 9. 温暖化対策】

横山 裕道 W266

気候変動の影響が深刻化している。そのために温暖化防止対策が重要なものというまでもないが、個人はもちろん企業や政府においても防止への対策が遅れている。防止よりは気候変動への適応に重点が移りつつあるのではないかと感じる。

【1. 気候変動】

(匿名) W267

温暖化に伴う自然災害の激化が進んでいるが、それとは無関係に土地利用が進み、国土がますます脆弱に、かつ多くの人々の命が危険にさらされる状況になっている。経済性や効率ではなく、災害の面から土地利用を考え直す時期にきていると思うが、その機運がないのが気がかりだ。

【1. 気候変動, 3. 土地利用, 9. 温暖化対策】

(匿名) W268

昨年末、パリ協定(COP21)は196ヶ国参加のもと採択され、長年にわたり各国が対立していた地球温暖化問題の枠組みが進んだように見える。しかしながら、現実問題としてアフリカ、シリア難民に代表されるように戦争、テロ、貧困、増大する人口問題、水問題、エネルギーと資源の争いが深刻化しており、この原因を絶つべく世界の各国が協調しなければならない。

昨秋国連で採択されたSDGs(我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ)は大きな方向を示している。この有限の地球環境を守るために、政府、マスコミ、学者、産業界、市民など多くの人が絶え間なく声を大きく上げ、あらゆる場所で発信をすることが必要である。このためには賛同する個人、団体などの資金のサポートも重要である。

地球の温暖化によって気候変動が加速しています。すでに日本を含めた先進国でも異常気象や大型台風の被害、以前はなかった竜巻の発生、熱中症の多発など、大きな問題が起こっています。しかもそれ以上に発展途上国では、巨大な台風、サイクロン、ハリケーンなどによる被害が頻発し、森林破壊なども進んでいます。また海面上昇による国土の浸食や喪失も起こっています。

この気候変動が食料危機、環境難民の大量発生などを引き起こし、社会的な紛争の原因になることも考えられます。

温暖化対策の取り組みでは、昨年12月の気候変動枠組条約締約国会議（COP21）で、2020年以降は世界のすべての国が取り組むというパリ協定が成立し、国際的合意が前進しています。しかし、日本も含めて各国が提出している削減目標は、パリ協定での合意である、平均気温上昇を1.5℃に抑えるという目標にはほど遠いものです。目標を見直し、各国が真剣に取り組む必要があると思います。

環境と経済について、十分な合意が得られていません。政府も経済界も短期的な経済的利益を追い求め、長期的視野に立った環境と経済についての政策がありません。このままでは、気候変動による被害や原発による放射能汚染などを、未来の世代に押し付けることとなります。環境問題についての危機意識を共有して、日本でも自然エネルギーの活用などをもっと本格的に進めるべきだと思います。

【1. 気候変動, 9. 温暖化対策, 10. 環境と経済】

(匿名) W270

・過酷な気象状況が頻発しており、危機感を覚える。温暖化との関係など不明確な事象が多く、詳細な説明が望まれる。

・CO2削減の目標は定められているものの、削減に向けた政策や技術開発が極めて不十分と思われる。

【1. 気候変動, 9. 温暖化対策】

渡辺 紀徳 W271

国連の持続可能な開発目標において、持続可能な消費と生産が位置づけられ、人々のライフスタイルを環境保全型に転換していくための取り組みがますます重要になっていると思います。気候変動や生物多様性など各国政府を中心に取り組む課題と違って、ライフスタイルについては市民レベルの取り組みが重要です。日本では地球環境問題への行動がライフスタイルと未だ十分に結びついていないと思います。地球環境問題に取り組んでいるのは熱心なごく一部の人に限定されてしまっていると思います。普通の市民が普通に環境保全のための行動に努める、そういう動きを後押しするような施策が求められていると思います。

【8. ライフスタイル】

(匿名) W272

原子力発電所の事故は、不可逆的な被害を立地する地域住民のみならず地球全体に及ぼす。その環境破壊のインパクトの強さは、チェルノブイリ事故、および今回の東京電力福島第一原子力発電所の事故で思い知らされた。仮に事故が起きなくても、使用済み核燃料を処理したり保管したりする場所がなく、人類にとって究極の環境破壊問題になるといってもよい。

【12. その他(原子力発電所の事故および使用済み核燃料の処理)】

(匿名) W273

エネルギーへの投資が化石燃料から再生可能エネルギーに向けて大きくシフトを始めており、世界のCO2排出量が堅調な経済成長にもかかわらず2年間増加していないことに、希望を感じることができる。パリ協定の合意もこの希望に後押しされた部分があるのではないかと。温暖化対策はコストや我慢や不便ではなく、新しい世界への転換だという前向きなビジョンが共有され始めている。過度に楽観はできないが、この観点からは、危機時計はほんの少し巻き戻ったようにみえるのではないだろうか。

【9. 温暖化対策】

江守 正多 W274

パリ協定が合意され、低炭素社会の実現に向けて第一歩を踏み出したといえるが、COP21を前に各国の示した削減目標は、パリ協定で目的とする2℃目標の排出経路と比較すると、そのギャップが大きく、さらなる取り組みが必要となる。短期的な利益を求めがちな状況の中で、2050年や2100年など長期的な取り組みをどのように検討するか、英知が求められている。特にこれから経済的に発展することが求められているアジアにおいて、どのように取り組みを進めるかが重要になり、日本がアジア各国に対してどのように貢献できるかを含めて検討する必要がある。

一方、先進国である日本が、先頭に立って温室効果ガス排出削減に貢献し、手本となることも求められている。従来のトレンドの延長でない新しい社会である長期的なビジョンを描きつつ、そのビジョンを実現するようなロードマップを提示し、その実現に向けて着実に取り組むことが重要となる。とりわけ、パリ協定でも触れられている排出量を0にするという状況は、21世紀後半とはいえ、今から準備をはじめ、行動を起こすことが必要であり、さらに1.5℃目標の実現が求められるようになれば、そうした行動を前倒して実現しなければいけない。

残念ながら、日本ではパリ協定に関する認知度が高いとは言えず、温暖化への取り組みが十分とはいえない面もあるが、とにかくできることから進めることが重要である。危機時刻を戻すためにも、1人ひとりが自らの問題として考え、取り組み、それを継続していくことが大切である。

【1. 気候変動, 9. 温暖化対策, 10. 環境と経済, 11. 環境と社会】

増井 利彦 W276

大気中のCO₂濃度が400ppmを超え、地球温暖化が大変深刻になってきており、暖海性の魚の生息域が北上している。また、巨大台風の発生なども懸念されている。このため、温暖化効果ガスであるCO₂の排出規制を、とりわけその排出割合が大きいエネルギーや産業、運輸などの部門で行っていく必要がある。

海洋ではまた、石油化学工業で製造されたプラスチック系の海ゴミが問題となっている。劣化してマイクロプラスチックになる前に、海面や海岸、海底において回収するシステムを構築することが重要である。さらにプラスチック系のゴミを発生させないようにするため、製造物責任を明確にするとともに、石油文明を見直していかなければならない。

石油文明を見直し、エネルギーを自然の再生可能エネルギーに転換していくことは、地球温暖化対策としても重要である。

【1. 気候変動, 4. 環境汚染, 9. 温暖化対策】

磯部 作 W277

■温暖化による気候変動は、その影響が異常気温(熱波、寒波)や洪水・干ばつなどの事象で、現実の災害になって増えてきていると思う。

IPCC5次報告は、1870年以後の温室効果ガスの累積排出量と気温上昇量とが線形関係にあるとする新見解を発表したが、その関係を見ると、温室効果ガスとりわけCO₂の排出限界が明瞭に読み取れ、削減の課題は非常に切迫しており、ここ20年ほどの動向が重要と思われる

■しかし中国やインドなど新興国は経済成長を目指しており、エネルギー使用量は拡大の一途をたどっている。

しかも問題なのは日本も含めて先進工業国は、それらの国の経済発展にコミットすることにビジネスチャンス求め、自国に有利な産業や経済システムへの投資、あるいは自国の原子力や化石燃料依存のエネルギープラント、自動車など、現在の温暖化問題をもたらした技術や社会システムを売り込み、それら新興国に自国がたどってきたのと同じ轍を踏むような影響力をもたらそうとしていることである。

■さらに問題なのは、そうした行動を、パワーポリテックスを背景とした競争や自国有利を目指す外交交渉ですすめようとしていることである。これでは展望が出てくるどころか、資源環境、廃棄物環境の容量は減るばかりで、悲惨な分捕り争いのリスクが避けがたいと心配される。

■地球システムにおいて、地球環境は人間社会より上位階層に位置する。「国破れて山河在り」と言われるが、「山河破れては国を語るべくもない」。

日本国憲法の精神に則った協力協同の国際関係を築き、それを基礎に、環境破壊問題への対策を急ぐのが、最適方策と思う。

【1. 気候変動, 9. 温暖化対策, 10. 環境と経済】

西川 榮一 W278

気候変動の問題については、不明な点が沢山あり、しかも問題がますます顕在化している点が懸念される。また、温暖化対策については、現状では非常に不十分であるが、今後の進展も大きな期待はできない。

【1. 気候変動, 9. 温暖化対策】

(匿名) W279

土壌、水、二酸化炭素、生物多様性といった、基礎的な自然資本の数値は、惑星マネジメント上重要と思います。

【2. 生物多様性, 4. 環境汚染, 5. 水資源】

服部 徹 W280

生物多様性の問題は、どこまでを含めるかが問題、人間や家畜、作物などの感染症なども含めると考えたほうがいい。いまのところ、顕在化していないように思えるが、ある閾値を超えると、一気に深刻化する可能性が高いと思う。一方で、気候変動の問題は変化が緩やかだが、止めようと思ってもすぐには止まらない可能性が高い。人工の問題は、それらに比べると予測ができるし、まだ解決策があると考えられる。でも、非常に厳しい問題と思う。

【1. 気候変動, 2. 生物多様性, 6. 人口】

(匿名) W281

ポスト京都議定書としてパリ協定は結ばれたが、具体的な温室効果ガス削減実現の戦略は示されていない。先進国と途上国、先進国と中進国(中国、インドなど)との利害対立・我田引水の議論も相変わらずである。実効性のあるガス削減のプロセスを明示して、世界が共有する必要がある。

原発問題、再生可能エネルギー問題も、政治的駆け引きや自国経済利益の文脈におかれてしまうので、人類の哲学・倫理としての根本的な議論から組み立てる必要を感じる。

【一】

徳永 哲也 W282

人類の生存基盤をベースに地球環境問題を考えたときに、一番重要なポイントは、食糧問題といえる。ただ、食糧問題といっても、食糧生産に関わる、さまざまな環境問題（水資源や気候変動など）と連携しているのも、非常に重要な問題であるとともに、解決も相当困難であると思っている。

その意味からも、中国やインドのように人口が多く、面積も広い国では、局地的な環境問題であっても、世界的に影響を及ぼすこともある。

特に、中国では、水環境に対する意識が低く、土壌汚染や地下水汚染が今後深刻になってくると思う。

人口の増加とも相まって、国内での農業生産での自給体制が維持できなくなったときに、食糧の獲得競争が始まってくると思う。

また、生活環境にしても、温暖化やそれによる疫病の蔓延などのおそれもあり、決して明るい未来ではないと思う。

【1. 気候変動, 3. 土地利用, 5. 水資源, 6. 人口, 7. 食糧, 9. 温暖化対策】

(匿名) W283

COP21 パリ協定の正式採択や、SDGs の採択など、特定の国や人に課せられた課題ではなく全世界が団結して取組み、それぞれの義務をそれぞれの立場で負うという世界的な合意が形成されたと言う事は危機感の表れでもあると同時に、未来志向の合意形成に人類と地球の未来の希望を見た気がします。

日本での取組みが形となっていくのはこれからだと思いますが、企業として個人として何が出来るのか、考え、行動していきたいと思っています。

生物多様性については、言葉としてかなり浸透してきた感じはありますが、行動に結びついていなかったり、ビオトープを作る活動になっていたりするのは、という気がします。

日本が提案した SATOYAMA イニシアチブを世界に効果的に広げていくためにも日本での身近な生物多様性保全を行うことが重要だと思います。

普通にいる生き物がいつまでもあたりまえにいるために、私たちが行わなければならないことがたくさんあると思います。

その一部だけでも担い、発信していきたいと思っています。

【2. 生物多様性, 9. 温暖化対策】

(匿名) W284

人口の増加に伴う環境破壊、大気汚染、食糧難、水資源の枯渇など人的影響に帰する問題に関しては、人の努力と協力によって改善出来るかもしれないので大いに研究し議論をし、協力し合って解決しなければならない。気候変動、生物多様性、温暖化など地球自身の変動（人的影響に起因するものもある。）特に、各地域で頻繁に起きている、地震、津波、がけ崩れ、豪雨などなど、自然の猛威から人類を守る事も重要なテーマになっている。

私は、相変わらず、土壌汚染の改良をやり、自然農法の横展開を推進しております。お陰様で徐々に広がりをみせ、世界各国から仕事が舞い込んできて68歳にしててんでこ舞い状況で、少しでも地球環境保全にお役に立てていればと喜んでおります。いつかどこかで皆様とご縁が出来るかもしれませんね。

【1. 気候変動, 2. 生物多様性, 4. 環境汚染, 5. 水資源, 6. 人口, 7. 食糧, 8. ライフスタイル, 10. 環境と経済, 11. 環境と社会】

米田 稔 W285

上記の「地球環境の変化を示す項目」のすべてが程度の差はあれ環境の持続性に反している状況であるにもかかわらず、環境問題への取組が最重要課題という認識が十分に共有されていないことが強く危惧される。

【1. 気候変動, 2. 生物多様性, 3. 土地利用, 10. 環境と経済, 11. 環境と社会】

(匿名) W286

・日本では、再生可能エネルギーの拡大。気候変動だけでなく、将来巨大ビジネスにもなる。

・大都市への集中→地域分散を可及的速やかに広範に実行する。

・教育の変革。

【一】

立川 涼 002

米国が世界地図から何故日本列島を消したのでしょうか。

【一】

森木 亮 003

地球環境問題に関連する国際会議では、我が国は率先して途上国支援のため、一兆を超える支援を表明するが、このことに若干頭を悩ます。というのは、この問題は、すべての国が努力する時代になってきており、表明を契機に他国からの過剰な要求のきっかけになる恐れがあるからだ。

世界のCO₂排出量4%弱の日本は、乾いた雑巾を絞るように削減技術を進化させてきた。一方、途上国とされた国の中には、今や途上国とは定義できない国もある。日本国内では、多額の債務に加え、介護、子育て等を巡る課題が山積みとなっている。国民の貴重な税金の使途はまず、一億総幸せを第一に考え、他国の支援は、技術力の輸出で大いに貢献して欲しい。

低エネルギー消費型のライフスタイルへの移行が必須です。

【8. ライフスタイル】

(匿名) 008

個人や企業による取組みでは不十分であり成果は期待できない。国による強力なリーダーシップが不可欠。同時に、この取組みに伴う新規事業の促進（税制優遇など）を行ない、経済問題を理由にした言い訳やブレーキが生じない施策実施が必要。

【10. 環境と経済】

(匿名) 009

パリ協定は大きな前進であったが、その実行性は各国のこれからの努力に全面的に委ねられた。この状況を各個人、NGO、研究者はしっかりと監視していかなければならない。実行を怠る国があるならば、強く抗議していくことが重要である。

一方、日本の取り組みも、世界の環境政策を牽引していくのに力不足ではないか。エネルギー政策、自然環境保全など各分野でのもっと踏み込んだ取り組みが求められている。

【1. 気候変動, 2. 生物多様性】

炭谷 茂 010

生物を中心として環境をみていますが、この減少がもっと経済界にも危機感が反映されることを願う。環境の悪化は、経済や社会への影響としてだんだん大きくなってきている。環境の価値が、もっと経済上の価値として認められてよいと思っている。

【2. 生物多様性, 10. 環境と経済, 11. 環境と社会】

(匿名) 011

「物」「サービス」の増加によって（ライフスタイルの変化）、従来は地域汚染が問題となったが、近年は、その質量が複雑となったため、生態系が変化し、人の生活リスクが高まっています。温暖化による気候変動は複雑化を極めて、複雑化していると思います。問1で答えた経済は、人の生活に直結するため、まず従来の経済対策（金融政策等）、その後中長期（問1では短期）対策として現況経済対策が始まると考えます。

【1. 気候変動, 2. 生物多様性, 7. 食糧, 8. ライフスタイル】

勝田 悟 012

地球環境への負荷の増大と人口の増加が相まって、中東やアフリカの地方環境の質が悪化し、これがテロリズムの温床になっているように思います。テロリズムがあることで、また、地球環境対策が結実化できない事態になり、悪循環が起きているように感じます。

【1. 気候変動, 9. 温暖化対策, 10. 環境と経済, 11. 環境と社会】

小林 光 015

我国のゲリラ豪雨、洪水、異常気温、地震等の多発を考えると、何か気候や地殻での変異が起きているのではないかと想像されて、不安である。国や行政、学界が一致して徹底調査する必要があると同時に、国民にその対応策をもっと啓発すべきである。

また、食の安全、安心も脅かされる問題が相変わらず内部告発によって明らかにされている。これも、より徹底した立ち入り検査と厳罰化が緊急の課題であり、例年、漁れる魚が減少したり、普段は獲れない海洋生物が網にかかったり、海洋での異変も見逃せないこれらの問題の背景の一つに、日本人のライフスタイルの変化もある。もう一度、あるべき姿を再考することも大切。

【1. 気候変動, 7. 食糧, 8. ライフスタイル】

田之内 厚三 016

日本国民としては、中国発の大気汚染や水質汚染が心配。

【1. 気候変動, 4. 環境汚染】

(匿名) 017

●地球環境問題の諸項目（生物多様性、土地利用、環境汚染、水資源、人口、食糧、気候温暖化、等々）は、独立した問題ではなく相互に関連している。諸問題の共通の・根源的な原因は、過度の経済的発展への夢想的願望にある。

●実質的な生活水準の向上を必要としている地域や階層はまだ残っているが、多くの経済的先進地域では、ただ利益追求の目的のために経済発展を標榜し、実質的な生活水準の改善に役立たない経済活動の拡充により、資源を浪費し、環境を破壊し、各地域・各階層間の格差を増大させている。

●各問題についての個別的対応も必要だが、それ以上に、上記した基本的問題についての議論を深めることが必要である。"af"の活動も、この問題に集中して欲しい。

【5. 水資源, 6. 人口, 7. 食糧, 10. 環境と経済】

二宮 洸三 018

エネルギー問題は、上記の変化を示す項目 1,4,7,10,2,8,11,3,6 などほとんどすべてに関連している。特に原発によるエネルギー問題は、人類の前途に大きな問題を投げかけている。現在のみならず、何百年先のことを考えなければならない。経済優先の考え方は、無責任である。大気、水、土、食料のすべての物に影響がある。クリーンエネルギーは皆の願いである。特に、女性は次世代を産み出す立場から、原発とは共存できない。

【1. 気候変動, 2. 生物多様性, 4. 環境汚染, 5. 水資源, 6. 人口, 7. 食糧, 8. ライフスタイル, 10. 環境と経済, 11. 環境と社会】

田崎 和江 019

日本ならびに地球全体で考えても自然災害（地震、台風、火山の噴火）によってもたらされる影響は、人類の生存と地球環境にとって今後、益々脅威になってくると思われます。

また、かろうじて、その発生が局所的とどまっている、様々な感染症の蔓延も、今後、他の項目とも連動し、人類の生存と地球環境を脅かす極めて重要な問題と言えます。

【自然災害（地震、台風、火山の噴火）、感染症の蔓延】

近藤 三雄 020

教育プログラム（ESD）は多く開発されているが、実施後の成果について評価がどのようになっているか、データ等取得調査や結果公表を行ってほしい。

【11. 環境と社会】

（匿名） 021

地球環境問題への取り組みには1人1人の意識を変えることが必要不可欠だと思いますが、それに一番有効なのは、幼い頃からの環境教育だと思います。全世界で共通の環境教育のプラットフォームができて、地球に住む全ての人の意識が変わるといいなと思います。

【12. その他（環境教育）】

（匿名） 022

核の使用

【12. その他】

原田 朗 023

地球には今、環境問題が渦巻いている。不安感が広がるばかり。自然災害の多発、生態系の変化……。安穩としているかに見える日常の中にじわりと不安が押し寄せている。気候変動はその根幹をなす。難民問題も環境問題ととらえている。北朝鮮の核ミサイル、日本の原子力発電所の再稼働……。環境問題はもっと広域でとらえるべきでは……。

【12. その他（難民、民族の対立）】

（匿名） 024

日本の原子力発電の事故、それが震災と重なったためとは云え、日本の国土を破壊し、長く殆んど回復不能なまでにダメージを与えたものはない。

地震や火山帯の上にある日本国がどのような計算をし対策を立てても、原発を続ける限り、自然災害には勝てないし防ぎきれない。自然災害の脅威に加えて、このような人為的な政策が国民をだまし続けて押し進められることに、現政権の無責任さ卑劣さを感じる。原発コストが安いと当たり前のように報道されているが、核のゴミ処理や貯蔵のコストはどのように計算されているのか。税金が投入されれば、それはコスト外なのか？

【12. その他（原発事故）】

登米 久雄 025

気候変動について、思いきった政策を打ち出せないまま原子力発電に固執、そこに東日本大地震が起き、迷走している。原発に頼った環境対策などあり得ない。

【1. 気候変動】

横田 弘幸 026

公正な活動による貧富の差の拡大は問題ではない。不公正な既得権の固執とそれによる格差の拡大が問題である。とりわけ、工業活動による汚染の無視、農業・林業による公益的価値の無視がひどすぎる。汚染者負担の原則による公正さ、すなわち「悪いことに増税」が必要である。さらに、「良いことに減税」が必要である。

【12. その他（不公平の拡大）】

海水温の平均水温上昇に伴う、世界各地での異常気象ニュースを良く見聞きするようになってきました。水温上昇の真の原因をより良く理解し、適切な対応をすべきと痛感します。

【一】

桂 忠彦 028

環境問題は、「外部性」のある故に生じるのではない。「外部性」の存在を内包する社会経済の「しくみ」の故に生じている。

【一】

荒山 裕行 030

1. COP21 に対する日本の GHG 削減目標 (2030 年に 2013 年比で△ 26%) に向けた草案では、①家庭②業務 (事務サービス等) で、さらに△ 40% が必要である現状。
2. 一般の個人は上記の状況を知らない人が多く、逆に日本は地球環境問題は " 以前から取り組んでおり、日本は世界でリーダー的な取り組みをしている " と認識していたり、" 省電力、紙使用量、ゴミ分別 " などを実施しており、これ以上の大きな削減の必要性を認識していない人が多い。
3. この認識の Gap があるために、草の根レベルの活動変化 (?) につながっていないのではないかと危機感がある。
4. マスコミも COP21 のことは大きく取り上げたが、達成のための日本の状況や取り組みべき大きな課題などは余り掲載しなかった様な気がする。
5. 次世代が安心・安全に暮らせる様に個人が改善策を取り込むように、政府、企業、NGO、NPO 等々がもっと強く働きかける必要性を強く感じる。

【1. 気候変動, 9. 温暖化対策】

(匿名) 031

昨年の国際会議で、従来まで積極的ではなかった中国や米国が参加し、削減義務を設定できたことは画期的なことであった。経済成長を負うだけでは、もはや地球上で人類が存在できないことにやっと気付いた結果だと思う。

我々人間は、ともすれば眼の前の多事に忙殺されてしまう。悲しいことではあるが、知恵を有する多くの人のたゆみない努力があれば、いつかは結実するものと信じる。いやな事実から眼をそむけたくなるが、「他者の痛み」に責任をもって進んで行きたいものだ。

【1. 気候変動, 6. 人口, 12. その他】

前畑 進 032

アフリカ南部における貧困問題がなかなか改善せず、これに伴う疾病などが深刻化していると思う。これは、絶対的貧困であるが、一方、日本のような国でも、相対的貧困が広まっていると感じられ、その対策が急務であるが、現実的にはあまり進んでおらず、" 格差 " が開いていると思われる。

【11. 環境と社会】

三島 勇 033

地球温暖化対策を成功させるためには、各国が本気になって取り組むという状況を創出するとともに、国内では低炭素社会に向けた環境、経済、社会のトータルな姿を国民に示し協力を仰ぐ必要があります。経済や社会に不安を抱いている状況で環境への対応を求めることは不可能を強いるようなものです。皆が安心して、しかも希求して取り組める目標やビジョンが是非必要です。

【一】

(匿名) 034

生きるために最も不可欠な食料は、世界的には、食べ物が口に入らず餓死する幼児であふれる現実にもかかわらず、購入あるいは用意される食物も 40% 以上が廃棄されており、賞味期限等の理由で処分される量も計り知れない。

「思いやり」やモラルに基づくライフスタイルへの更なる改善は、気候変動、環境その他の生活条件の改善にも繋がるが、人類の存続そのものにとっての最重要課題と考えられる。

【8. ライフスタイル】

寺畑 建雄 038

地球温暖化の防止は今からでは不可能であり、適応策に取り組むべきである。そのためには、途上国の支援に力を入れるべきだ。

【1. 気候変動】

天野 正博 039

原発に依存しないエネルギー源の確保が必要。

【8. ライフスタイル】

(匿名) 040

1. 気候変動：ここ数年、異常気象で極端現象が起っている。CO₂濃度も約400ppmと高くなり、それに伴って、海水温の上昇、平均気温の上昇が続き、地球環境の悪化となっている。CO₂対策については、石炭発電に基づく大量のCO₂はCCS対策が有効と思量される。このような気候変動は、食糧資源の減少にも起因していると考えられる。

4. 環境汚染：中国やインドではPM2.5に起因する深刻な大気汚染が頻繁に起っており、特に中国の大気汚染は日本にも影響を及ぼし始めているのが心配である。また、化学物質による環境汚染に対して、有害化学物質対策、管理等が急務と言える。尚、日本では東日本大震災に伴う原発事故による放射能汚染が生じている。

5. 水資源：汚染による飲料水の減少や一部の地域での人口増加も食糧や飲料水の減少も問題になりつつある。

【1. 気候変動, 4. 環境汚染, 5. 水資源】

原田 博之 041

地球温暖化の日本への影響は、現在の予想以上に厳しく大きくなると思われる。当然、我国のみでなく、多くの国への影響も急増する前提で対策が必要となっている。

しかし、グローバルレベルでの温暖化対策は絶望的に進展しないであろう。

ジオエンジニアリング、ジオバイオエンジニアリングの影響評価を進める必要を感じている。

【1. 気候変動, 9. 温暖化対策】

和田 英太郎 044

日本では、人口が減少し始め、人口分布は二極化の現象がみられる。小生が問題視しているのは、集中している都市及びその近郊における乱開発である。

多様な生物が息する極めて都市周辺部では、貴重な区域がみるみるうちに工場敷地や住宅地へと変わっていく。他方、地方では過疎化が進んでおり、一見、人の住む、或いは利用する区域面積は帳尻が合っているようにあるが、一旦破壊された自然環境は、人が利用しなくなった途端に開発前の状態に戻るわけではない。よって、政府は、自然豊かな土地を開発するためのガイドラインを作るべきと考える。

近頃試みられている省庁の一部地方移転は、打開策の一つとも考えられるが、出来れば、過疎化の土地を有効に利用できる方法があればと考えている。

【1. 気候変動】

(匿名) 045

地球環境問題は、世界が協力して取り組むべき課題の一つと考えるが、近年のテロの頻発は、それを阻害するのではないかと憂慮する。

【12. その他 (地球環境問題全般)】

(匿名) 047

地球規模の影響が顕在化しているにもかかわらず、経済・技術の先進国としてしっかりした国の方針を打ち出せていない日本の現状に危機感と焦燥感が募るばかりです。

【9. 温暖化対策】

花田 真理子 049

1) 放射能汚染について、もっと注意をむける必要があると思います。特に日本では、(福島県だけでなく)人口減少に現れる形で大きく影響が出てくると思います。それは、チェルノブイリ事故の様子をよくみると予想できることです。一般に放射能の内部被曝を軽くみているように思います。

2) 多くの人々の幸せや社会の平和に何の責任も感じていない集団が、政治や経済の実権を握っているように思います。その集団が消えない限り、地球環境問題(経済的な問題も)の解決はできないと考えます。

【12. その他】

(匿名) 051

水と食糧と土地利用、この3つは相互に深く関係しており、人類生存上重要な課題であるが、残念ながら、国際的な注目が未だ足りない。世界の人口が今後も増え続けていく中で、この3つをいかに各国が上手に制御するかが、「持続可能な発展」の為に最も重要な課題である。

【3. 土地利用, 5. 水資源, 7. 食糧】

西川 智 052

8.11の課題の克服なしに環境への負荷の転換はありえないだろう。人文科学、社会科学の展開の場合ではいえる。

福島原発事故があったにもかかわらず、原発から脱却できないことは大きな問題です。放射能汚染が除去できないまま、今後も同様な事故が起こりうる原発を再稼働させるのは、どう考えても合理的判断だとは思えません。社会全体としてエネルギー浪費を減らし、経済的豊かさにとどまらない社会的豊かさを目指す方向へ進むべきです。地球環境問題は、今も昔もそのことを訴え続けています。

【11. 環境と社会】

早川 洋行 055

現在の温暖化の原因について、いろいろな指摘がなされているが、人間社会の高度工業化が大きな理由の一つであることに間違いはないであろう。少しでもこの方向を押し止めるべきである。新たな技術等の開発がなされており、効果も一部みえて来つつあるように思われる。我々の生活レベル見直しが必要だろう。60 数億の地球上の人々が、日本や米・欧州各国の生活をするようになることが考えられるのか不安。

【1. 気候変動, 9. 温暖化対策】

笠井 高芳 056

1. 気候変動：異常気象の常態化が極めて不安。国土の安定性の低下。
2. 生物多様性：里地里山などでの国民的取組の進捗に大いに期待。環境省の重要里地里山の指定に伴う施策への期待。
3. 土地利用：農業従事者の高齢化に伴う休耕地の増加、荒地化の増加は危機感強まる。
4. 環境汚染：化学物質の広汎な利活用と拡散の副作用が心配。
6. 人口：少子高齢化の放任への不安。
7. 食糧：国境を越えた新鮮野菜の輸出入。
8. ライフスタイル：エコスタイルの不徹底が続く社会。
10. 環境と経済：あくまでマネー資本主義の経済政策の主流化への疑問。

【1. 気候変動, 2. 生物多様性, 3. 土地利用, 4. 環境汚染, 6. 人口, 7. 食糧, 8. ライフスタイル, 10. 環境と経済】

進士 五十八 057

気候変動に伴う異常気象の発生、レジリエンスの低い途上国を中心に、その対策となる社会づくりを先進国がサポートする必要がある。また現実的な問題（目の前の問題）として、水質汚濁や廃棄物などの環境汚染対策も急がれる。

【1. 気候変動, 4. 環境汚染】

(匿名) 058

環境・経済・社会の統合による持続可能な社会の実現という理想・実践のモチベーションが全体として下がっていることを懸念。非常に深刻に捉えている。

【一】

柳下 正治 059

化石燃料に依存するエネルギー消費。

【1. 気候変動, 9. 温暖化対策】

富板 崇 060

豪雨や猛暑などの現象が日常化しつつあり、ハンセン証言のようなインパクトを与えるメッセージが乏しくなっている。これらの現象を個別に気候変動と結びつける直接的な証拠はなく、科学者も名言を避ける傾向がある。また、市民も毎年のように暑いので、「今年もですね」と感覚がマヒしかけている。

一方、太陽光パネルについて、安易な設置が散見され、周辺環境にマイナスとなっている。

温暖化ビジネスへの便乗と温暖化影響への意識低下が気になる。

欧州もテロなどで気候変動の位置づけが低下し、サミットでも主要課題からはずれつつある。

【1. 気候変動】

(匿名) 061

世界は、これ迄の地球温暖化の原因のひとつである石炭、石油に依存した経済体制からの大きな変革をせまられている時期に来ています。歴史が示している様に”必要は発明の母である”との言葉どおり、人類の叡智は必ずこの難題を乗り越える事が出来ます。科学分野での発明、技術分野でのイノベーション、教育分野での環境教育の全世界的拡がり、又、政治分野での地球規模の国際的政策と連携しかりです。

私は 13 年間に我国の環境中小企業とその経営者への御支援と御協力を続けて来ています。

しかしまだ我国環境産業は主要産業には程遠い状況にあると言えます。なぜなら、国民、経済人、官吏、教育者、政治家の人達に本気度が見られないからです。

このまま地球が破滅の道に向かうのか、それを止める事が出来るのかは、気が付いている人から、その対策に乗り出せる勇気があるのかどうかにかかっていると書いても良いと思います。

今こそ、国家観だけでなく世界観に立って、今迄の考え方を転換して、子や孫に豊かな地球を残してあげるのが、今を生きる私達の使命と役割ではないでしょうか・・・。

【1. 気候変動, 9. 温暖化対策, 10. 環境と経済, 11. 環境と社会】

横山 直史 062

わが国における原子力発電に対するヒステリックな反対に懸念します。「原発反対」の One issue で参議院に当選した人もいます。また、100%安全が保障されていないとして、稼働を止めた裁判官がいます。

気持ちが判らないではありませんが、原発比重を下げれば、化石燃料が増え、CO₂が増大する側面も考慮に入れるべきでしょう。もう少し冷静な議論ができるとういのではないのでしょうか。

【1. 気候変動】

(匿名) 064

地球環境問題の一つである地球温暖化が原因となり、近年、熱中症患者の増加やこれまでなかった病の発病など、市民生活レベルでの問題が発生している。

地球温暖化というワードを出すと、スケールの大きさから他人事だと見ない人がほとんどであると思うが、問題が市民生活レベルで発生しているという実情を踏まえ、全員が当事者意識を持つような啓発を考えていかなければならない。

【一】

(匿名) 067代

気候変動は温暖化対策と密接に関係している。パリ協定により、今後日本が取り組む施策が国民一人一人から理解され、国民総出の温暖化対策が進められることができるように期待する。また、化学物質による環境汚染は、災害等により一層深刻化してきている。リスク管理も含め、各種の化学物質による汚染対策を早急に進めなければならない。

【一】

(匿名) 068

宗教が既存の価値観の否定につながっている。

【11. 環境と社会】

(匿名) 070

気候変動が極めて多くの分野に関係していることを十分に理解されておらず、「もっぱら温暖化傾向を示し、それへの対策をもってよし」とする（近年、適応戦略等も言われているが）傾向が強く、これだけでは人はライフスタイルを変えようとは考えないのではないか。もっと影響する所が極めて広く、健康・衛生環境、食生活・環境から国土開発・管理、災害対策のあり様等について、気候変動と言う視点からの議論が深められると、もっと多くの人が気候変動に対して関心をもってもらえるのではないかと考えている。

【1. 気候変動, 3. 土地利用, 9. 温暖化対策, 11. 環境と社会】

岩坂 泰信 072

地球環境問題への対応は、まず先進国の人々が個人個人のライフスタイルの転換を図ることにより、資源少消費型のライフスタイルを実践し、発展途上国の人々に範として示すとともに、環境資源の開発・利用への経済学的アプローチにより、持続可能な社会を構築し、これを国際的に共有することが重要です。

【8. ライフスタイル, 10. 環境と経済, 11. 環境と社会】

山田 和司 073

「気候変動」に関しては、いよいよ各地での異常気象の頻発など待たなしの状況になっているように感じる。また、大気汚染の項目では、かつて地域環境問題として取り沙汰されてきたものが、国境を越えた脅威となっている。またそれを防止する、または改善するための国際間協調が進むどころかむしろ対立の構図へと突き進んでいる点が大いに懸念される。

【1. 気候変動, 4. 環境汚染, 11. 環境と社会】

(匿名) 074

被害（者）の設定、応分の負担、加害者側の責任の所在等明確化を図る（促進する）必要がある。国民生活と企業活動と行政とが、より密接した政策決定、実施できる体制の構築が重要である。国際間の情報交換（公開）できる行動指針を与えられる専門組織の充実・強化が急務である。

【1. 気候変動, 2. 生物多様性, 4. 環境汚染, 5. 水資源, 8. ライフスタイル, 9. 温暖化対策, 10. 環境と経済, 11. 環境と社会, 12. その他（放射能汚染、核エネルギー）】

西田 益温 075

環境問題とは、人間の五感（力）を破壊したり鈍らせたりすることではないかと思う。情報通信機器や技術の発達により、五感のバランスも危機にあるのではないか。

【一】

(匿名) 079

地球固有の自然変動によると考えられる寄与分と人為変動による寄与分を、明確に分けて、一般に説明して、市民の一層の協力を得られるような根拠を示すべきと思われる。

【1. 気候変動】

海老瀬 潜一 080

最近、大きな気象災害が世界的に増加していると思います。どのようなことが原因かを突き止め、対策できることから行ってゆくべきと思います。

【1. 気候変動】

(匿名) 082

人口増加に伴う食料不足や水資源の悪化・不足については、ある程度認識されてきている。現在、最も重要と感じられるのは、豊かな浪費生活、必要以上の消費に慣れた現代人のライフスタイルの改善である。"MOTTAINAI"はキーワードとなる。

【8. ライフスタイル】

梅崎 輝尚 084

1. 大雨、洪水等の頻発、水資源の不足、主要穀物生産量の減少等、元を正せば地球温暖化による異常気象に起因するものといえよう。各国はこの危機感を共有し、温暖化対策は人類生存のための喫緊の課題であることを強く認識する必要がある。

2. 環太平洋地震帯は、世界の地震の90%を占める地震の巣ともいわれているが、特に日本付近では大きな地震が多発しており、人命の喪失、環境の破壊は甚大なものとなっている。この発生の場所、時期などの予知等は今もって十分に解明されておらず、先進国であり、かつ地震大国でもある日本が中心となって、十分な資金手当により研究者の育成と研究開発を行っていく必要がある。

【1. 気候変動, 5. 水資源, 7. 食糧, 9. 温暖化対策, 12. その他(地震等による環境破壊)】

大串 伸昌 085

気候変動が原因となり、温暖化をはじめとする多くの環境影響（負荷）を生んでいます。

その対策には、気候変動（温暖化）に対する緩和対策、対応する対策がありますが、緩和対策には「自己責任」、対応対策には「地産地消」が求められます。

「自己責任」としては、「エコハウス化」「省エネ器機導入」「再生可能エネルギーに対する機器の導入」などが「自己責任」で行なうべきで、その場合は「温暖化対応」を”我がこと”と考えて自己責任を発揮すると良いと思います。

また、「地産地消」対策としては、自分の生産から排出され廃棄されるもの（家庭ゴミなど）をエネルギーに転換するのが最も身近で実行可能な方法が取れます。例えば、発酵熱利用の発電、燃焼させた熱発電などで、これも”自己責任”の範囲です。

【1. 気候変動, 9. 温暖化対策】

上田 隆一 087

資本主義をどう考え直すかと同時に「環境と社会」について考える必要がある。「環境と経済」はこれを同時に達成するための政策が考えられ、一部実行されているが、環境問題を解決できるレベルにはない。

【10. 環境と経済, 11. 環境と社会, 気候変動】

(匿名) 088

パリ協定は成功だったと考えるが、その目標が実現できるか心配である。世界中が真剣に取り組むことを願っている。

最近話題になっているマイクロプラスチックなどの海洋汚染は、魚を主要な蛋白源とする日本人には気がかりな点である。フードロスを無くすことも極めて重要と思う。食糧格差の解消のためにもフードロスを無くする努力は欠かせないと思う。

その他の項目も大変重要で、かつ危機的状況にあると考えるが、『生存の条件』（2010年旭硝子財団）で論じられていることを、自分も含めて多くの方々がもう一度よく考えて、自分なりにできる行動を実現していきたい。

【1. 気候変動, 4. 環境汚染, 7. 食糧】

新田 尚 090

生物多様性は、人間が人間のための環境開発により益々危機的状況にあります。

日本において、里山が失われ、猪が跋扈しているのはこの証左と考えます。多来生植物による環境の改変は深

刻であります。

地球温暖化による気候変動は、人間社会への自然から逆襲であります。人間（一部の先進国）による大量のエネルギー消費は、化石燃料に頼らざるを得ないとする一部の政府の考え方は、未来の子孫のことを本当に考えているのでしょうか。かといって、原子力は利用すべきではありません。人間自身を信用していないわけではなく、自然の猛威の前には、原子力の暴走を止められません。自然エネルギーの利用を拡大するしかないのではないかと。

【1. 気候変動, 3. 土地利用】

千脇 秀樹 091

日本においては、農村部の労働力の減少、農産物内外価格差による農村部の耕作放棄の増大、管理の不十分な農村地域の資源（土地を含む）の増大による気候変動への受容力の減少が懸念されている。一方、日本への農産物の輸出を増大させている中国等の農産物価格は、単に安い労働力対価しか反映されておらず、脆弱な土地資源、水資源の資源量低下等を反映しない、安価な農産物価格となっており、このことが、気候変動への受容力の減少につながっている。今後、中国等の生活水準の向上により、牛・豚等動物性たんぱくへの需要が高まれば、さらに、土地資源量の減少との引き換えの略奪的農業を加速する可能性が高い。こういった環境コスト（環境の質の低下をさせずに回復に必要なコスト）を内在させた、農産物価格の形成、その価格に基づく貿易（フェアトレードよりもっと広い概念）を発達させる必要がある。

【1. 気候変動, 3. 土地利用, 7. 食糧, 10. 環境と経済】

（匿名） 092

いつも同じことを書きます。

1. 現在の地球の姿は、ただかここ1万年間のもので、このことをよく認識することが必要です。

2. 「環境」とは、まわりのことです。何が中心なのかを明確にして論ずること、すべての生物が地球上のすべてのところで繁栄することはないのです。その意味で、Sustainable Development は幻想でしょう。

3. 「地球温暖化」とはわかりやすい言葉と思いますが、地球全体が温暖化しているわけではありません。英語には「地球温暖化」という言い方はないのでは？「Global Warning」は「地球規模の温暖化」で、大気や海洋といった表層の温暖化で、議論は、このことを踏まえて行いたいものです。

【一】

吉田 栄夫 093

・太陽光発電：太陽エネルギーを取り込むことは危険（地球の温度が上がり過ぎる）。ほどほどにすべきと思います。

・化石燃料、バイオエネルギーは、もともと植物が太陽（？）エネルギーから取り込んだものだと思います。CO2を燃焼等によって大気に戻してもよいと考えられる許容量を正確に把握する必要があると思います。

・環境負荷の少ないライフスタイルの提言、構築に向けて早急に取組む必要がある。

・日本において、低平地で優良農地が住宅地等になるのが心配である。もっと土地利用を計画的にすべきである。

【3. 土地利用, 8. ライフスタイル, 9. 温暖化対策, 12. その他（適切な土地利用計画の策定）】

（匿名） 094

再生可能エネルギーの活用が必要と考えるが、ドイツで廃棄物からのメタン発酵が盛んに行われているのと比較すると、日本は再生可能エネルギーへの取り組みが進んでいない。

【1. 気候変動, 4. 環境汚染, 8. ライフスタイル, 9. 温暖化対策】

竺 文彦 097

地球環境問題として身近に感じる問題は気候変動です。子供の頃のことを考えると、夏は暑く冬も暖冬の年が多くなり、夏の異常高温や冬の積雪の少なさは、肌で感じられるようになり、昔はなかったゲリラ豪雨などによる自然災害も、年々増加しているように思います。環境問題の解決に向けて、一人一人が出来ることはたいしたことが出来なくても、国レベル、地球レベルに考え、行動に移していかなければならないと思います。

【1. 気候変動】

（匿名） 098

地球温暖化など気候変動は、その予想される影響の大きさや深刻さから考えて、人類の生存基盤に関わる最も重要な環境問題であり、地球温暖化を防止することは、人類共通の課題である。我々は、豊かで多様な自然環境を享受しながら生活を営み、産業を興し、個性のある文化を育んできた。これらのおかげがない自然環境を将来の世代に確実に引き継いでいくためには、化石燃料に依存したエネルギーの大量消費型社会から環境への負荷の少ない持続可能な社会の構築を図り、持続していくことが重要である。

【1. 気候変動, 8. ライフスタイル, 9. 温暖化対策】

（匿名） 099

日本と世界の状況は大きく異なるが、世界的に見れば、人口の増加が多く環境問題の根本原因であろう。人

口問題は、経済（貧困）問題でもある。

【一】

（匿名） 100

1. 気候変動が多発し、4. 環境汚染が深刻化し、5. 水資源、6. 人口、7. 食糧も悪化し始めている。9. 温暖化対策がもっとも大切なものである。

【一】

後藤 隆雄 101

発展途上国の人口爆発とともに食糧危機の到来が予想されている。しかし、食糧危機は発展途上国だけの問題であるばかりではなく、先進国の所得格差拡大に伴う低所得に対する問題となりつつある。貧困（低所得）による食糧アクセスが困難となりつつある。とりわけ、先進国では食品ロスがサプライチェーンにおける構造的な廃棄物となりつつある。現に、生産された食糧の1/3が利用されることなく廃棄されている。これは、生産-流通-消費のライフサイクルにおいて①豊作による価格暴落を防ぐ為の価格調整に伴う廃棄 ②輸送におけるいたみ等による廃棄 ③流通での多めの仕入れと売れ残りの放棄 ④過度な新鮮度重視、買いだめのまま手つかずによる廃棄等、すべてのライフサイクルで生じている。また、安全性と廃棄物にしないための食品偽装が問題を複雑にする。①いびつな野菜 ②海外依存度の高いわが国の自給率の低さは他方で輸出国でのヴァーチャル・ウォーターや環境問題 ③地力（肥沃度）の低下といった問題もある。

来たるべき食糧危機に対して、新しい食糧供給のルールやライフスタイルが模索されてよい。Food Bank や Doggie Bag(Box) の活用（米）、反食品廃棄物法（仏）そして天候に左右されない安定供給と効率的生産を目指す植物工場（節水）等、食品を廃棄してリサイクルする「食品リサイクル法」に代えて、すべての人々が関与する「食品3R (Reduce, Reuse, Recycle) 法」へのソーシャルイノベーションが求められる。

【7. 食糧, 8. ライフスタイル】

郡 篤 孝 102

日本に関しては、合計特殊出生率の低下による人口の減少と超高齢化社会の到来が、最大の問題となっている。ただ、世界視点で見れば、人口は増加の一途であり、今後、衛生状況の改善や医療の進展などにより、人口増加は加速度を増し、地球で生活できる（望ましい生活水準をどの程度とするかを踏まえ）人口を割り出し、人口抑制策を含めた議論がおこなわれる時代が来るのではないかと危惧される。

【6. 人口】

（匿名） 103

地球環境問題については、COP21で今世紀後半に温室効果ガスの排出量を実質的にゼロにすることを目指す「パリ協定」に合意しました。このような世界的な約束を実現するためには誰かがやってくれるというような意識を根本的に改めることが求められる。価値観の転換と危機意識を共有してすべての一人一人がどんな小さなことであってもできる行動を継続的に実行&拡大することである。勿論、社会構造や技術的な進展も必要なことは当然である。

①少し長い時間軸で、環境問題についての意識の高い人が身近な人に生活している地域に対しては当然であるが、より地球的視点で問題意識を持っていない人達をあらゆる機会を捉えて一人でも多くの人に地球環境問題解決にかかわる持続的な行動に移し、拡げて行ってもらうことが重要と思う。

②今世紀の半ば以降に中核として活躍する小さな子ども達のために、地域社会が身近な里山に「学びの場」を持続的に整備し、自然の中で、生物多様性、生き物の命の尊厳など夫々の五感を通じての実体験と多くの感動体験をさせることである。学校教育では安易にネットワークに頼る薄っぺらな人間関係や最近のいじめや命を粗末にするような子ども達に社会性を備えた健全な成長を期待することは難しいと思う。

【2. 生物多様性, 8. ライフスタイル, 9. 温暖化対策, 10. 環境と経済, 11. 環境と社会】

北野 孝一 104

(1) 気候変動、日本は、温帯モンスーン地域に属し、四季の移り変わりが生活の基盤になっている。ところが昨今は、四季そのものが判然とせず、突然気温が上下し、昨年（例えば2015年）は春と言え期間が無しというほどであった。従って、変温性の小動物は、発生する機会が少なく、ために夏に成虫が発生するタイプ（例えばホタル）は例年の半数より少なかった。こういう自然界の変動が種類毎に適応できず、生物多様性(2)が失われる実態を現場で種々確認できた。気候変動と多様性は各種に必要な範囲があり、それが狂うとかみ合えないのが実態である。(6)の人口は、日本では出産率が低下しつつあって回復の兆しが見えない。一方、一向にやめない戦争が続き、ISの出現は難民を多数出している。これは、地球規模での人口の減少を促進し、それ程時間が経たなくとも人類は消滅すると思われる。

【1. 気候変動, 2. 生物多様性, 6. 人口】

（匿名） 105

閉じた環境である地球上では、養える生物の量は自ら決まっている。その中で、たった1種の大型動物がこれほどまでに生息したこと自体に無理があり、限界に達していると考える。国際紛争も集約すれば、資源、エネルギーの配分をめぐる争いであり、ヒトという生物が資源量に対し多過ぎることが根本的な要因であることは

疑いない。

人口が減ることが、様々な問題の解決に対し、最も有効に働くはずである。近代以前の人口に戻す努力を早急に始めることが、紛争を減らし、資源、エネルギー、環境問題の根本的解決につながると思う。

【3. 土地利用, 4. 環境汚染, 6. 人口】

藤村 由美子 106

気候変動については、緩和策を進めると並行して適応策を積極的に進めることが重要。自然環境の変化に柔軟に対応できる社会づくりが必要。

環境と経済については、環境コストの内部化について、その必要性を広く周知しつつ制度づくりを進めることが重要。さらに特に気候変動の緩和と適応の両面からの産業発展のための施策の推進が重要。

【1. 気候変動, 10. 環境と経済】

石丸 泰 107

地球温暖化の影響は世界各地の異常な気候変動となって現れつつあり、日本も例外ではない。昨年のパリ COP21 では、世界 1, 2 位の GHG 排出国米中を入れた各国が世界の気温上昇を産業革命前比 2℃以下に抑制し、1.5℃を努力目標としていくことを申し合わせた。そのためには、温暖化の人為起源となっている人間活動からの GHG 排出量を 450ppm 以下に抑える必要があるが、現在排出量は既に 400ppm を超えており、パリ協定で各国が提出した自主削減値の積上げではこの目標到達は全く不可能である。先日日本の環境省、国立環境問題研究所と JAXA は、日本の GHG 観測技術衛星「いぶき」が観測した地球全大気の大気月平均濃度について、2016 年 1 月までの暫定的な解析を行ったところ、2015 年 12 月に初めて 400ppm を超え 400.2ppm を記録したことが分かったと発表した。地上観測点による地表面大気の大気月平均値は既に 400ppm を超えていたが、地表面から上空約 70km までの大気中の総量を観測できる「いぶき」のデータによる全大気の大気月平均濃度が 400ppm を超えたのはこれが初めてである。これにより、地表面だけでなく地球の大気全体で GHG の濃度が上昇し続けていることが確認された。いまや全地球の大気圏全体が極めて不安な状態に突入していることが分かってきた。こうした状況を踏まえて、これも先日富山市で開かれた G7 環境相会合では、昨年パリ協定での各国の GHG 排出削減長期戦略の策定時期前倒しを盛り込んだ共同声明を採択した。5 / 26 ~ 27 開催の G7 伊勢志摩サミットでは、パリ協定や G7 環境相会合を踏まえた世界の温暖化対策への一致した貢献が首脳宣言に盛り込まれると考えられる。しかしながら、このような世界の温暖化対策で、温暖化の大きな要因になってきたと思われる軍事分野はなぜか一貫して聖域になっている。軍事分野における軍用機、戦車、軍艦等の走行で使用する燃料は極めて大量であり、したがって排出する GHG も民生分野に比較して桁違いに大きいことは言うまでもない。例えば F-15 ジェット戦闘機 1 時間飛行時の使用燃料は普通乗用車 8 年間走行に匹敵し、M-1 エイブラムス戦車 1 時間走行時の使用燃料は普通乗用車 1 年間走行に匹敵し、戦艦の 1 時間走行時の使用燃料は普通乗用車 21 年間走行に匹敵する (2009 年 5 月刊環境学者和田武著「環境と平和」から)。最近では、カナダ、スウェーデン等で自国軍事活動による GHG 排出量把握と抑制への検討が始まっており、英、独、EU 多国籍軍でも軍事エネルギー抑制、再生可能エネルギー資源利用、オゾン破壊物質排出削減の努力が試みられるようになってきている (H20 年 12 月三菱総研報告書から)。こうした平時における軍事分野の GHG 排出量把握と削減は基本的に必要であるが、戦時には軍事活動は油田、建物、都市等の大量破壊を伴い、その総合した排出量は飛躍的に増大する。20 世紀は、二つの世界大戦を頂点に、数々の戦争が世界中で頻発した「戦争の世紀」であった。20 世紀の 100 年間に大気中の CO₂ 濃度は飛躍的に増大し地球平均気温も急上昇したが、その要因として戦争による軍事活動がどの程度あったか定かでないものの、かなりの影響があったことは否定できないのではないか。第二次大戦後の世界は、1959 年政府間の「ジュネーブ軍縮会議」を発足させて世界の軍縮協議を開始し、日本も大きな役割を担ってきたが、これと別に 1989 年日本竹下登首相は、各国の政府だけでなく広く有識者、マスコミ、国際機関、市民団体も参加する「国連軍縮会議」の設置を提唱し、この会議は以降原則毎年日本政府後援の下に日本国内各都市持ち回りで開催されて、2015 年は広島市で開催されたことは記憶に新しい。地球温暖化に起因する気候変動が 21 世紀人類最大の共通課題となってきたいま、世界はもはや温暖化対策として軍事分野だけを聖域にしてはならない。これから世界は、戦後日本が一貫して世界をリードしてきた世界の軍縮の動きを、世界の温暖化対策推進の一要素として関連付けて考え、推進していく必要があるのではないだろうか。温暖化がこのまま進行すれば、世界的な気候変動、異常気象により世界各地での食料飢饉、水飢饉が発生し、世界規模での食料難民、水飢饉難民が大量発生して、新たな国際紛争の火種となることも予測されるに至っている。そのような最悪の事態を回避するためには、国連 IPCC 等の国際関係機関に、各国が足並みを揃えて軍事部門の GHG 排出量把握と削減を検討して軍事部門を温暖化対策の一環に組み込むよう呼びかけていく必要がある。宗教の世界でも日本を含む世界の諸宗教が、それぞれの宗派を超えて協力し環境問題や平和問題等の地球的課題に取り組む WCRP (世界宗教者平和会議) のような活動もあり、WCRP 代表は 2008 年洞爺湖サミットに際しては日本の福田康夫総理に提言書を提出したが、これからの世界は、21 世紀を俯瞰する長期視点に立ち、グローバルな観点から、界際を超えて、軍事部門を含む聖域のない総合的な温暖化対策を検討するべきである。これこそが温暖化対策で政治分野が果すべき最大の課題ではないだろうか。日本にはその呼びかけの音頭を取る資格が十分あると考える。

【1. 気候変動, 9. 温暖化対策, 12. その他 (温暖化と軍事: 軍事は平時でも演習等の戦車、軍用機、軍艦、重火器等の排出 GHG は大きい) が、戦時にはこれらの使用で油田、建物、都市等を炎上破壊して膨大な GHG を排出する。温暖化への軍事の影響を無視してはならない。】

岡田泰幸 108

